

『言語文化論集』 総目次

創刊号(1980)～第38巻2号(2017)

創刊号(1980)

- ・伊東泰治. 創刊にあたって p. 1
 - ・岩崎宗治. 比較言語文化試論 pp. 3-20
 - ・飯田秀敏. 英語語頭無声音部の長さについて pp. 21-31
 - ・丹羽義信. OE *Vespasian Psalter* に現われる動詞複合形の共起関係について (IV)
-GEOND-, FOR@-, UT-, UP-, ONWEG pp. 33-52
 - ・中尾祐治. MS. B. M. Add. 59678 と Caxton 版 *Le Morte Darthur* の前置詞の異同に関する一資料
pp. 53-81
 - ・山田耕士 (幹郎). ロバート・グリーン の喜劇 (その3) pp. 83-103
 - ・神尾美津雄. 新しい *Hortus Conclusus*—擬古典主義的崇高の逆説 pp. 105-130
 - ・吉村正和. 「予言書」における円環シンボリズム (I) —ランベス七書について pp. 131-150
 - ・山口隆夫. トマス・ハーディの小説における貴族の家 (1) pp. 151-163
 - ・西脇克明. A Comparative Study on Saki and Dahl pp. 165-178
 - ・時実早苗. 憑かれた声—小説論としての *Absalom Absalom!* pp. 179-192
 - ・伊東泰治. 吟遊詩人について pp. 193-205
 - ・馬場勝弥. 「ローター王」について pp. 207-218
 - ・小栗友一. 「オレンデル」について pp. 219-237
 - ・伊藤泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子. ヴォルフラム・フォン・エッシェンバ
ハ テイトゥレル (1) pp. 239-256
 - ・有川貫太郎. 「ファゴット吹きカスパー」と「魔笛」—1791年の二つのウィーン民衆劇—
pp. 257-271
 - ・金子章. Goethes *Mondlieder* pp. 273-296
 - ・柴田庄一. 現代抒情詩の詩法—トラークルの詩作品を手がかりとして— pp. 297-304
 - ・早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論—ドイツ戦後文学の原点を求めて— (第3
章) pp. 305-319
 - ・Paul Schwarz. VERFREMDUNG IM SOZIALISTISCHEN DRAMA DER DDR AM BEISPIEL
VON PETER HACKS pp. 321-342
 - ・三谷法雄. 『とはずがたり』の物語的手法について pp. 一～一七
- 著者別索引 (付録)
- 名古屋大学教養部紀要 (外国語・外国文学) 第1輯～第20輯 (1957～1976)
- 名古屋大学教養部 名古屋大学語学センター紀要 (外国語・外国文学) 第21輯～第23輯 (1977～
1979)

第2巻 第1号 (1980)

- 丹羽義信. OE *Vespasian Psalter* に現われる動詞複合形のラテン語との関係について (V)
pp. 1-25
- 中尾祐治. Malory における否定辞の *ne* について—MS. BM. Add. 59678 と Caxton 版 *Le Morte
Darthur* の比較を中心に— pp. 27-46
- 松浦順子. Wolfram von Eschenbach の作品における現在分詞 pp. 47-59
- 大坪一夫. 日本人の長短母音判別能力について pp. 61-68
- 三谷法雄. *Tom Jones* の構成について pp. 69-81
- 西脇克明. サキの楽器 pp. 83-97
- 加藤貞通. *Go Down, Moses* と南部民謡 pp. 99-121
- 森昌弘. Neithart Fuchs とナイトハルト像の変遷 pp. 123-136
- 浜田義孝. クルツ＝ベルナルドンについて pp. 137-154
- 水谷泰弘. フィリップ・ハーフナーと郷土・風俗劇 pp. 155-167
- 塚部啓道. カスペルル像の成立について pp. 169-185
- 武田周一. Th. Fontane の「シャッハ・フォン・ヴェーテノー」について pp. 187-198
- 原研二. Phrase の舞台—Ödön von Horváth:『スラデク, または影の軍隊』を中心に— pp. 199-217
- 早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論—ドイツ戦後文学の原点を求めて— (第4
章) pp. 219-230
- Paul Schwarz. Märchen als Interpretation sozialer Wirklichkeit pp. 231-246
- 松岡達也. バシユラルの読み方 pp. 247-267
- David A. Sitkin. The Upside-Down Topos – Exaggeration and Inversion in the Kibyōshi of Santō
Kyōden – pp. 269-283
- 山口隆夫. 戦後日本における外国観—序説— pp. 285-299
- 岩崎宗治. 戦後日本文学の文体—大江健三郎の場合— pp. 301-317
- 伊藤泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子 訳. ヴォルフラム・フォン・エッシェ
ンバハ テイトゥレル (2) pp. 319-330
- 山田耕士 (幹郎). シドニー『アルカディア』(初稿) —その1— pp. 331-351

第2巻 第2号 (1981)

- 滝沢隆幸. 現代フランス語のアクセント pp. 1-17
- 中条直樹. ドモストロイ II pp. 19-32
- Adelbert G. Smith. Drama in the Foreign-Language Classroom pp. 33-39
- 安藤重治. ベン・ジョンソンの詩 (その三) pp. 41-57
- 吉村正和. 「予言書」における円環シンボリズム (II) —『四つのゾア』について pp. 59-73
- 山口隆夫. トマス・ハーディの小説における貴族の家 II pp. 75-85
- 時実早苗. 「改訂」と小説の成立 *Absalom, Absalom!* と “wash” の場合 pp. 87-95
- 伊東泰治. ゲーテ「Faust」の受容について pp. 97-114
- 池田信雄. 愚者の王とカイン—ジャン・パウルの『彗星』について pp. 115-130
- 早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論—ドイツ戦後文学の原点を求めて— (第5

章) pp. 131-142

- 舟橋豊. 「自然」の変容とルソーとデイドロにおける自然の観念 (3) pp. 143-170
- 湯浅伊瑛子. ロブ=グリエと近代絵画 pp. 171-189
- 山田耕士 (幹郎) 訳. シドニー『アルカディア』(初稿) —その2— pp. 191-213
- ウィーン民衆劇研究会 訳. イギリス劇団の歌芝居「箱の中のピッケルヘーリング」 pp. 215-228
- 三谷法雄. 修行の旅—『とはずがたり』の主題について— pp. 一〜一四

第3巻 第1号 (1981)

- 近藤健二. OV 語から VO 語へ—格語尾消失が意味するもの pp. 1-13
- 小坂光一. Elliptische Erscheinungen – Ein Versuch der Konfrontativen Betrachtung des Deutschen und des Japanischen – pp. 15-38
- 大坪一夫. 日本人の促音の有無の判別能力について pp. 39-47
- 村主幸一. 乞食の宮廷—*King Lear* と *Courtesy Books*— pp. 49-58
- 吉村正和. 「予言書」における円環シンボリズム (III) —『ミルトン』について pp. 59-73
- 三谷法雄. *Amelia* の構成について pp. 75-85
- 西脇克明. ダールの美德 pp. 87-101
- 山口隆夫. 塔のある家—『塔上の二人』論 (トマス・ハーディの小説における貴族の家 III) pp. 103-115
- 武田周一. フォンターネの描く女性像について—「セシル」と「不貞妻」を中心として (その1) 「セシル」 pp. 117-128
- 早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論 (第6章) —ドイツ戦後文学の原点を求めて— pp. 129-141
- 山田耕士 (幹郎) 訳. シドニー『アルカディア』(初稿) —その3— pp. 143-173
- 金子章. 人間の生理と根源的に結びついている自然と引用の自然 (上) —森 澄雄の俳句における自然— pp. 一〜一

第3巻 第2号 (1982)

- 中尾祐治. MS. B.M. Add. 59678 と Caxton 版 *Le Morte Darthur* の定冠詞と不定冠詞の異同に関する一資料 pp. 1-15
- 中野弘三. 法助動詞と否定 pp. 17-35
- 三谷法雄. Chastity と Charity—*Joseph Andrews* について— pp. 37-51
- 吉村正和. 「予言書」における円環シンボリズム (IV) —『エルサレム』について pp. 53-68
- 池田信雄. 青空舞踏会上空の軽気球—ジャン・パウルの語りの生成について pp. 69-91
- 早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論—ドイツ戦後文学の原点を求めて— (第7章) pp. 93-103
- 舟橋豊. 「自然」の変容とルソーとデイドロにおける自然の観念 (4) pp. 105-135
- 白井成雄. アランとファシズム pp. 137-152
- 丹辺文彦. 「ロシア人旅行者の手紙」における被動形動詞 pp. 153-165
- 山田耕士 (幹郎) 訳. シドニー『アルカディア』(初稿) —その4— pp. 167-184

- ・飯田秀敏・近藤健二. 戦後日本文化と外来語 pp. 185-200

第4巻 第1号 (1982)

- ・小野経男. 階層的思考による文法論 pp. 1-22
- ・近藤健二. 格について pp. 23-36
- ・小坂光一. ドイツ語教授法をめぐるいくつかの問題点 (I) pp. 37-54
- ・三谷法雄. Goodness と Prudence—*Tom Jones* について— pp. 55-67
- ・神尾美津雄. ワーズワス『序曲』—牧歌のかなたに pp. 69-93
- ・西脇克明. サキとダール (続編) pp. 95-108
- ・武田周一. テーオドル・フォンターネの描く女性像 (その2) 「不貞妻」の場合 pp. 109-117
- ・早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論 (第8章) —ドイツ戦後文学の原点を求めて— pp. 119-129
- ・中条直樹. 「イオアサフ年代記」と大ノヴゴロド pp. 131-144
- ・山口隆夫. 国定国語教科書と外国観—第六期国定国語教科書を中心として— pp. 145-178
- ・山田耕士 (幹郎) 訳. シドニー『アルカディア』(初稿) —その5— pp. 179-196
- ・金子章. 人間の生理と根源的に結びついている自然と引用の自然 (下) —森 澄雄の俳句における自然— pp. 一〜一五

第4巻 第2号 (1983)

- ・中尾祐治. Malory の英語における接頭辞の出没—MS. B. M. 59678 と Caxton 版との異同から見た—資料— pp. 1-24
- ・小野経男. 受動文の階層的考察 pp. 25-46
- ・小坂光一. ドイツ語教授法をめぐるいくつかの問題点 (II) pp. 47-67
- ・寺川みち子. 音声と発音意識—尾張方言の / ai / について— pp. 69-80
- ・岩崎宗治. 近代的〈自我〉の超克—アイリス・マードックの『ユニコーン』について— pp. 81-92
- ・山田耕士 (幹郎) 訳. 『文学修士ロバート・グリーンの後悔』 pp. 93-107
- ・三谷法雄. ‘The Art of Life’—*Amelia* について— pp. 109-118
- ・今泉容子. Whitman’s Seashore Poems pp. 119-129
- ・中嶋忠宏. C. F. マイヤーの詩的空間《フッテン最後の日々》を巡って pp. 131-148
- ・早崎守俊 (良久). 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論 (第9章) —ドイツ戦後文学の原点を求めて— pp. 149-160
- ・伊東泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子 訳. ヴォルフラムの叙情詩—*Tagelieder* と *Werblieder*— pp. 161-190
- ・柴田庄一. 近代日本文学の生成と変質 (その一) —問題の所在— pp. 一〜一五

第5巻 第1号 (1983)

- ・小坂光一. Die Adverbialpartikel „WA” im Japanischen und das deutsche Vorfeld pp. 1-24
- ・山田耕士. ロバート・グリーン悲劇感覚 pp. 25-37

- 三谷法雄. Fielding の小説における都市のイメージ pp. 39-47
- 山口隆夫. 支配者の家 (トーマス・ハーディの小説における貴族の家 IV) pp. 49-64
- 西脇克明. ジョイス・キャリーの「馬の口」 pp. 65-79
- 田野勲. シャーウッド・アンダソン論 (I) —父と子— pp. 81-90
- 武田周一. テーオドール・フォンターネの小説世界に関する考察「Stechlin 湖」について pp. 91-107
- 早崎守俊. 戦後雑誌 „Der Ruf” に関する試論 (第 10 章) —ドイツ戦後文学の原点を求めて— pp. 109-120
- 宮坂喬. ロンサールとヴァリアント—Louis TERREAU の Ronsard Correcteur de Ses Œuvres について— pp. 121-146
- 白井成雄. アラン：《わが思索のあと》について (I) pp. 147-161
- 松岡達也. La pâte triste と La main heureuse—サルトルとバシュラール— pp. 163-196

第 5 卷 第 2 号 (1984)

- 今泉容子. The Women in *Beowulf* pp. 1-9
- 岩崎宗治. *Macbeth: A Recapitulation of the History Plays* pp. 11-17
- 正岡和恵. ‘Of imagination all compact’: A Study on *Macbeth* pp. 19-30
- 三谷法雄. *Jonathan Wild* の構成について pp. 31-40
- 吉村正和. ブレイクの神殿思想—2つの〈神殿都市〉— pp. 41-51
- 唐澤恪. 非日常への旅 (一) —アメリカのロマンス小説についての一素描— pp. 53-61
- 時実早苗. *Adventures of Huckleberry Finn* and the Problem of “I” pp. 63-74
- 田野勲. シャーウッド・アンダソン論 (II) —シカゴからエルシノアへ— pp. 75-85
- 松岡達也. 「円と垂直」(rond et vertical) [I] (想像力 知覚 言語) —バシュラールとメルロ＝ポンティ— pp. 87-133
- 山口隆夫. 国定国語教科書と外国語 (II) —「尋常小学国語読本」の外国関係教材— pp. 135-156
- 山田耕士・磯野守彦・鳥居忠信 訳. 『人間』(*Mankind*) pp. 157-174
- 伊東泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子 訳. ナイトハルトの叙情詩 (その一) pp. 175-226
- 柴田庄一. 「恋愛」のかたちと〈公私〉の接点 (上) —森鷗外における「日本の近代」— pp. 一～二一

第 6 卷 第 1 号 (1984)

- 小坂光一. 補文の従属度 pp. 1-17
- 山田耕士. ボーハンの夢—『ジェームズ四世』の時間構造— pp. 19-43
- 三谷法雄. Fielding の倫理観 pp. 45-59
- 西脇克明. コンラッドの「攪乱工作員」, 前編 pp. 61-79
- 森昌弘. イェルク・ヴィクラム『乗合馬車』(1) pp. 81-95
- 前野みち子. シラーの美学論文 (一) —審美的空間と公的空間をめぐって— pp. 97-115
- 原研二. 《愛しのアウグスティン》伝説 I—またはペストをめぐるウィーン史— pp. 117-131

- 武田周一. テーオドル・フォンターネの描く市民像「イエニー・トライベル夫人」について pp. 133-146
- 白井成雄. アラン点描—学生時代— pp. 147-160
- 松岡達也. 「円と垂直」(rond et vertical) [II] (存在論) —バシユラルとメルロ＝ポンティエ— pp. 161-201
- 山田耕士・磯野守彦・鳥居忠信 訳. 『人間』(続) (*Mankind*) pp. 203-218
- 柴田庄一. 「恋愛」のかたちと〈公私〉の接点 (下) —森鷗外における「日本の近代」— pp. 一～一四

第6巻 第2号 (1985)

- 丹羽義信. On the Adverbial Particle *forþ* in the *Vespasian Psalter* and the *Anglo-Saxon Chronicles* pp. 1-13
- 中尾祐治. Malory における等位接続詞—*nother, nouter, nor, neyther, ne, other, or, eyther*—について pp. 15-36
- コラ・フォルクマル. 日本語とドイツ語の構造的差異に関する数量的考察 pp. 37-83
- 中条直樹. 古代ロシア語 “*мужъ*” を含む表現について pp. 85-96
- 丹辺文彦. 英訳にみるロシア語動詞アスペクトの諸相 pp. 97-125
- 村主幸一. *The Book of the Courtier* にみられる宮廷社交について pp. 127-142
- 岩崎宗治. Fortune and Nature in Robert Greene's *Friar Bacon and Friar Bungay* pp. 143-152
- 正岡和恵. *Beyond Appearances: Study on Hamlet* pp. 153-163
- 山口隆夫. 貴族の家の影—『町の人々』のなかの市民の家 (トマス・ハーディの小説における貴族の家 V) pp. 165-177
- 西脇克明. コンラッドの「攪乱工作員」後編 Conrad's *The Secret Agent*, Part II pp. 179-193
- 加藤貞通. 疑似牧歌としてのジョン・ガードナー作 *Grendel* pp. 195-209
- 前野みち子. シラーの美学論文 (二) —自由と自意識— pp. 211-238
- 原研二. 《愛しのアウグスティン》伝説 II—ベストをめぐるウィーン史— pp. 239-253
- 舟橋豊. デイドロの *naturisme* ルソーとデイドロにおける自然の観念 (5) —『ブーガンヴィル航海記補遺』と『ラモーの甥』を中心として— pp. 255-306
- 白井成雄. *Laïcité* と民衆大学におけるアランの活動 pp. 307-318
- 柴田庄一. 異文化間コミュニケーションの根底—共通項の理解のために— pp. 319-331
- 山田耕士・磯野守彦・鳥居忠信 訳. 『現世と子供』(*Mundus et Infans*) pp. 333-365
- 伊東泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子 訳. ナイトハルトの叙情詩 (その二) pp. 367-427
- 森昌弘 訳. イェルク・ヴィクラム『乗合馬車』(2) pp. 429-444
- 早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論的試み— pp. 一～二八
- 三谷法雄. 『とはずがたり』の主題について—覚書— pp. 一～一〇

第7巻 第1号 (1985)

- 中尾祐治. Winchester Malory と Caxton's Malory における *be* 動詞の異同について pp. 1-17

- 飯田秀敏・田中俊也. ‘Drift’を考える pp. 19-52
- 小坂光一. 応用言語科学としての日独語対照研究 pp. 53-66
- 西脇克明. コンラッドの「西欧人から見て」 pp. 67-84
- 岩崎宗治. ‘Triumph of Nature’ in Robert Greene’s *James the Fourth* pp. 85-95
- 三谷法雄. *Joseph Andrews* とセルバンテス pp. 97-108
- 山口隆夫. 新しい家と消滅した家—『ダーバヴィル家のテス』のなかの貧農の家, 聖職者の家, 貴族の家—(トマス・ハーディの小説における貴族の家 VI) pp. 109-126
- 山田耕士. シェイクスピアとスザンナ pp. 127-144
- 安藤重治. 『アストロフィルとステラ』について—あるいは、言葉の発見ということ pp. 145-159
- 村主幸一. Courtesy books とエリザベス朝演劇 pp. 161-178
- 中嶋忠宏. ホーフマンスタールにおける世界の表象—『世界小劇場』の周辺— pp. 179-194
- 森昌弘 訳. イェルク・ヴィクラム『乗合馬車』(3) pp. 195-212
- 神谷修. 中国語と日本語の形容詞について(その二) pp. 213-248
- 早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論的試み— pp. 一〜一九

第7巻 第2号 (1986)

- 中尾祐治. Malory における連結詞の *so* と *for*—Winchester Malory と Caxton’s Malory の異同を中心に— pp. 1-24
- 三谷法雄. Mrs. Heartfree の冒険談—*Jonathan Wild* の挿話について— pp. 25-34
- 加藤貞通. 牧歌的トボスとフォークナーのヨクナパトウファ pp. 35-50
- 吉村正和. ことばの翻訳／文化の翻訳 pp. 51-60
- 毎熊みち子. 『トルクワートー・タッソー』—海をめぐる^{メタファー}の考察— pp. 61-87
- 小栗友一. ナイトハルトのミンネザング＝パロディー pp. 89-97
- 山田耕士・坂田智恵子 訳. 『イングランドのヘリコン』(抄) pp. 99-140
- 森昌弘 訳. イェルク・ヴィクラム『乗合馬車』(4) pp. 141-159
- 伊東泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子 訳. ナイトハルトの叙情詩(その三) pp. 161-229.
- 柴田庄一. 中江兆民の啓蒙思想の行方—『三酔人経論問答』の位置をめぐる— pp. 二一〜三六
- 早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論的試み— pp. 一〜一九

第8巻 第1号 (1986)

- 丹羽義信・吉村正和. 3種類の聴解テストの相関と Seating Area の問題 pp. 1-9
- 神谷修. 現代中国語における近義文について pp. 11-25
- 榎本太. きょうだい—初期イギリス小説の場合— pp. 27-45
- 山口隆夫. 「社会, 構造, コミュニタス」—トマスハーディ研究序文— pp. 47-61
- 山辺雅彦. スタンダールとスクリープ(上) pp. 63-76
- 山田耕士 訳. ジョージ・ピール『老妻物語』 pp. 77-107
- 森昌弘 訳. イェルク・ヴィクラム『乗合馬車』(5) pp. 109-125
- 早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論的試み— pp. 二一〜四〇

- ・ 正岡和恵. アーデン・劇場・アルカディア—生成する空間— pp. 一三～二〇
- ・ 三谷法雄. 小説と戯作—『小説神髓』について— pp. 一～一一

第8巻 第2号 (1987)

- ・ 丹羽義信. 古英語接頭辞・句動詞構文の分類 pp. 1-10
- ・ 湯浅伊瑛子. La « féminité » chez Simone de Beauvoir pp. 11-39
- ・ 神谷修. 現代中国語の中に生きている『論語』の言葉 pp. 41-64
- ・ 三谷法雄. *Joseph Andrews* の挿話について pp. 65-74
- ・ 松岡達也. ソワ (soi), ラ (là) —メルロ＝ポンティに於ける, 身体と世界の発見— pp. 75-100
- ・ 岩崎宗治. シェイクスピア批評とフェミニズム—批評史のための素描— (その1) pp. 101-111
- ・ 山口隆夫. 教育による紳士—トマスハーディの教育観 (一) pp. 113-125
- ・ 時実早苗. *Aspern's Precious Papers* pp. 127-138
- ・ 村主幸一. *Romeo and Juliet* におけるイニシエーション pp. 139-156
- ・ 今泉容子. 教養部英語の授業形態を考える—コロラド大学夏期英語講座を参考に— pp. 157-169
- ・ 中嶋忠宏. アリアドネーの神話領域—ニーチェとホーフマンスタールの場合 pp. 171-185
- ・ アンドルー・ライト. *Teaching Content and Intercultural Skills through the English Language: A Modest Proposal* pp. 187-196
- ・ 阿部正. テレビ講義番組の制作 pp. 197-228
- ・ 秦喜美恵. 日本語能力評価のための一考察—クローズ・テストの信頼性, 妥当性, および採点法の問題— pp. 229-246
- ・ 山田耕士・磯野守彦・鳥居忠信 訳. 『間狂言 青年』 (*The Interlude of Youth*) pp. 247-272
- ・ 森昌弘 訳. イェルク・ヴィクラム『乗合馬車』 (6) pp. 273-292
- ・ 田邊玲子. 異質の自己—アネット・フォン・ドロステ＝ヒュルスホフ《鏡像》をめぐる— pp. 六九～八〇
- ・ 早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論の試み— pp. 四九～六七
- ・ 森田勝昭. 「嘘」の実験工房『白鯨』 pp. 三三～四七
- ・ 舟橋豊. 古代日本人の自然観 (一) —『古事記』を中心に— pp. 一～三一

第9巻 第1号 (1987)

- ・ 神谷修. 中国語使役文及びその日本語訳 pp. 1-19
- ・ 三谷法雄. *Tom Jones* の挿話について pp. 21-32
- ・ 山田耕士. トマス・ウィルソンのレトリック論 pp. 33-48
- ・ 岩崎宗治. シェイクスピア批評とフェミニズム—批評史のための素描— (その2) pp. 49-55
- ・ 中尾祐治. *Winchester Malory* と *Caxton's Malory* の異同—*als(o)* の場合— pp. 57-67
- ・ 山口隆夫. 社会劇としての階級外結婚—トマス・ハーディの社会人類学— pp. 69-79
- ・ 今泉容子. 生への意志—ブレイク初期の詩における墓 pp. 81-95
- ・ 中井政喜. 魯迅「傷逝」に関する覚え書 pp. 97-126
- ・ 早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論的試み— pp. 七七～九三
- ・ 田邊玲子. 『エリーザ』、或いは貨幣を持ったマリア pp. 四三～七五

- ・藤井たぎる. 言葉の秘密、秘密の言葉—ホフマンスタール試論 (III) — pp. 二七～四一
- ・正岡和恵. 牧歌へのアプローチ pp. 一五～二五
- ・竹内俊男・越前谷明子. 新聞文章にみる特殊敬語 (皇室用語) の形成 pp. 一～一四

第9巻 第2号 (1988)

- ・深田淳. 敬語現象の言語記述における位置づけについて pp. 1-12
- ・小坂光一. 日本語とドイツ語における「条件文」(1) pp. 13-26
- ・神谷修. 試論古汉语介詞“于”、“於” pp. 27-38
- ・白井成雄. マドレーヌ・エピソードについて pp. 39-51
- ・西垣学. 「ワット」論 (1) pp. 53-64
- ・三谷法雄. *Amelia* の挿話について pp. 65-73
- ・加藤貞通. ウォーカー・パーシーの南部—父子関係の主題を探る— pp. 75-91
- ・馬場勝弥. 「パルチバル」ノート (5) —ヴォルフラムと宝石— pp. 93-113
- ・大野英二郎. *L'historicité d'Adolphe* pp. 115-134
- ・岩崎宗治. シェイクスピア批評とフェミニズム—批評史のための素描 (その3) — pp. 135-144
- ・水谷泰弘. フェルディナント・ライムントとトーニ・ヴァーグナー pp. 145-154
- ・丹辺文彦 訳. ニコライイカラムジーン『ロシア人旅行者の手紙』 pp. 155-171
- ・山田耕士・磯野守彦・鳥居忠信 訳. 『嘲り屋ヒック』(*Hick Scorer*) pp. 173-205
- ・土岐哲・越前屋明子. 日本語の話しことば教育について—中・上級段階にみられる談話能力の變化— pp. 207-220
- ・藤原雅憲・神田紀子. 日本語研修コースの現状と課題 pp. 221-234
- ・山口隆夫. 『ウィルソンリーダー』と『小学読本』—比較言語文化的研究 (一) pp. 235-260
- ・柴田庄一. 暗黙知と異文化間コミュニケーションの可能性—L・ヴィトゲンシュタインならびにM・ポランニーの所説に触れて— pp. 261-275
- ・早崎守俊. 日本のダダイストたち—比較文化論的試み— pp. 九五～一一四
- ・森田勝昭. 南太平洋とテキスト (一) pp. 七七～九四
- ・舟橋豊. 古代日本人の自然観 (一) —『古事記』を中心に— pp. 五三～七五
- ・藤井たぎる. 語りの構図、あるいはメビウスの環 (一) —マルティン・ヴァルザー『ドルレとヴォルフ』— pp. 四五～五二
- ・每熊みち子. 広場の変容—ゲーテとクライストにおける公衆像と世界把握— pp. 一～四三

第10巻 第1号 (1988)

- ・飯田秀敏・車美愛. 現代韓国語の末尾語調について—従来の分類・記述と問題点— pp. 1-15
- ・津田幸男. *Language Problems in Intercultural Communication: Review and Suggestions* pp. 17-30
- ・木下徹. 変形 C-Test の信頼性: テスト用テキストの難易度と親密度の影響について pp. 31-44
- ・大室剛志. 英語における半動名詞構文について pp. 45-65
- ・小坂光一. 日本語とドイツ語における「条件文」(2) pp. 67-81
- ・神谷修. “是……的” 结构之探讨 pp. 83-96
- ・西垣学. 『ワット』論 (II) pp. 97-111

- 西脇克明. 犯罪小説の初期：ポウとコリンズ pp. 113-129
- 三谷法雄. *Amelia* における結婚の主題について pp. 131-139
- 岩崎宗治. シェイクスピア批評とフェミニズム—批評史のための素描（その4）— pp. 141-148
- 中井政喜. 魯迅の「個人的無治主義的」に関する一見解—附 江坂哲也訳「『革命物語』序（アンドレ・ビラート著）」 pp. 149-181
- 今泉容子. ブレイク初期の詩におけるふたりの女性—セルとウースーン— pp. 183-203
- ADELBERT G. SMITH. Self-instruction and Its Application to the Teaching of English as a Foreign Language in Japanese Universities pp. 205-222
- 深田淳・木下徹. 英語速読・読解訓練システムの設計と開発 pp. 223-234
- 福田真人. 結核の比較文化史序説—問題の提起と可能性について— pp. 一三～三六
- 田野勲. 「武器よさらば」再考 pp. 一～一二

第10巻 第2号 (1989)

- 木下徹・深田淳. Computer Assisted Language Learning による英語速度力養成：システムの効果と課題 pp. 1-12
- 大室剛志. 英語における同族「目的語」構文について pp. 13-28
- 小坂光一. 日本語とドイツ語における動詞句の動作様態と時称（1） pp. 29-49
- 滝澤隆幸. 現代フランス語研究1 pp. 51-56
- 竹内俊男. Discourse としての新聞報道：二次ニュースの Anaphora pp. 57-69
- 鹿島央. 長音の音響的特性について—日本語学習者と日本との比較— pp. 71-81
- 三谷法雄. *The Female Husband* について pp. 83-92
- 加藤貞通. 南部プランター階層の末期症状と豊かな社会における中流階級の苦境を診断する
ウォーカー・パーシー pp. 93-103
- EIJIRO OHNO. Constant et le sentiment de génération pp. 105-119
- Peter B. High. The Ancien Régime of Japanese Film and the Revolt of the Fans: 1911-1918
pp. 121-148
- 中尾祐治. The Winchester Malory と Caxton's Malory の語彙 pp. 149-159
- 鈴木繁夫. ルネッサンス・エンブレム研究（1）—視覚イメージとシドニー、シェイクスピア、ミルトン— pp. 161-180
- AKITOSHI NAGAHATA. The Wardrobe and the Net: a “Potential Plot” in John Ashbery's
“Scheherazade” pp. 181-197
- 柴田庄一. ニーチェにおけるディオニュソス的なもの—創造論への一つの布石— pp. 199-214
- J. C. BELTZUNG. Enseignement du Français Langue Étrangère et Techniques Nouvelles Communication au Congrès des professeurs de français du Chûbu (14 mai 1988) pp. 215-228
- 森田勝昭. 探検航海記と捕鯨—冒険商人ロバート・ソーン— pp. 四三～六二
- 福田真人. 産業革命と肺病—結核の比較文化史— pp. 一三～四二
- 田野勲. 三十年代のヘミングウェイ（I） pp. 一～一二

第11巻 第1号 (1989)

- Shigeo Shirai. Alain en 1929 pp. 3-22
- 有川貫太郎. レッシングの「ホラティウス弁護」 pp. 23-37
- 三谷法雄. *Shamela* の風刺について pp. 39-53
- 遠藤泰生. 建国の父祖達が綴ったアメリカ独立革命史—報告文学として読む場合— pp. 55-69
- Peter B. High. Ideological Structures in the Japanese National Policy Film, 1941-1945 pp. 71-91
- 鈴木繁夫. 『アストロフェルとステラ』における倒錯の美—図像による比喩の膨らまし
pp. 93-130
- 中嶋忠宏. シュピッテラーの速度論 pp. 131-148
- 今泉容子. ブレイクのアウトライン論 pp. 149-187
- Folkmar Koller. La dramaturgio de la malnova viena popolteatra poeto Adolf Bojerle pp. 189-214
- 小坂光一. 日本語とドイツ語における動詞句の動作様態と時称 (2) pp. 215-239
- 滝沢隆幸. 現代フランス語研究 (2) pp. 241-246
- 神谷修. 日語慣用型所对应的复数中文表现形式之探讨 (之一) pp. 247-265
- 鹿島央. 日本語の等時性について pp. 267-276
- 福田真人. 結核と女工哀史—結核の比較文化史— pp. (1)-(24)
- 言語文化論集 第I巻～第X巻 (1979～89) 総目次 pp. i-x

第11巻 第2号 (1990)

- 三谷法雄. Fielding の小説における家族について pp. 3-13
- 山田耕士. 「ベイコン」における時間 pp. 15-31
- 安藤重治. 遊びとまじめの間で—トーマス・ワイアットの詩について— pp. 33-53
- 加藤貞通. ウォーカー・パーシーと黒人たち pp. 55-70
- 鈴木繁夫. ハーマイオニ彫像のスペクタクル遠近法—『冬物語』における浮遊の中心としての王
と貨幣 pp. 71-102
- 長畑明利. *Gravity's Rainbow* における「支配」の構造 (1) —「物語」とマゾキズム— pp. 103-122
- 中嶋忠宏. シュピッテラーの零度の修辞 pp. 123-139
- 今泉容子. ファイトマンの出産の詩 pp. 141-156
- Folkmar Koller. Aŭstra Ŝooŭa-erao pp. 157-169
- 滝沢隆幸. 現代フランス語研究 (3) pp. 171-180
- 丹辺文彦. 『ロシア人旅行者の手紙』 (2) pp. 181-197
- 深田淳. 文法タグ付きコーパス多重条件検索システム pp. 199-211
- 奏喜美恵. 日本語クローズ・テストから日本語変形 C-Test へ—採点法の問題を中心に—
pp. 213-225
- 大野英二郎. レカミエ夫人の美貌について—評判の交錯— pp. (141)-(177)
- 舟橋豊. 古代日本人の自然観 (三) —『古事記』を中心に— pp. (93)-(140)
- 前野みち子. アムピトリュオーン神話の転形—名誉をめぐる広場の考察— pp. (59)-(91)
- 田野勲. 三十年代のヘミングウェイ (II) pp. (45)-(58)
- 福田真人. キーツ・肺病・ロマン主義—結核の比較文化史— pp. (1)-(43)

第12巻 第1号 (1990)

- 村主幸一. 魔女・セクシュアリティ・言葉—*The Duchess of Malfi* 論 pp. 3-25
- 岩崎宗治. 『ロミオとジュリエット』の異教秘儀 pp. 27-48
- 中嶋忠宏. シュピッテラーの定義系 pp. 49-65
- 西垣学. 二人のサミュエル—ベケットの死に寄せる— pp. 67-77
- 平井勝利・加納光. 日本語の所謂「結果の副詞」及び「様態の副詞」とそれに対応する中国語の表現形式 pp. 79-89
- 神谷修. 试论副词与“了₂” pp. 91-105
- Katsufumi Narita. Zur deutschen Aussprache bei japanischsprachigen Lernern im Anfangsstadium pp. 107-125
- Rainer Scheckel. VORBEREITENDE ÜBERLEGUNGEN ZUM WÖRTERLERNEN IM KYOOYOBU DEUTSCHUNTERRICHT pp. 127-144
- Folkmar Koller. Kontraŭdiroj de la „Plena Analiza Gramatiko” al „La Fundamenta Gramatiko”, unua parto pp. 145-174
- 加藤扶久美・稲垣宏明・近藤健二. ‘Xたち’の曖昧性 pp. 175-187
- 稲垣宏明. 外国人留学生の言語生活における地域方言の干渉—名古屋大学の留学生の場合— pp. 189-206
- 遠藤泰生. 独立革命期ヴァージニアにおける黒人奴隷制度問題—人と人との関係史に至る以前— pp. (79)-(94)
- 福田真人. 肺病・コッホ・鷗外—結核の比較文化史— pp. (55)-(77)
- 前野みち子. アムピトリュオーン神話の転形(承前)—名誉をめぐる広場の考察— pp. (1)-(53)

第12巻 第2号 (1991)

- Tsuneo ONO. CASE ABSORPTION AND CASE HIERARCHY: A CONTRASTIVE STUDY IN SEARCH OF A LANGUAGE PARAMETER pp. 3-22
- Adelbert G. Smith. THE KEYWORD METHOD: A MNEMONIC TECHNIQUE FOR THE ACQUISITION OF FOREIGN LANGUAGE VOCABULARY pp. 23-44
- Folkmaro Kolero. Ekzemplo de strukturisma komparo de la germana karnavalludo kun la japana nofarso pp. 45-64
- 有川貫太郎. レッシングの「ヴァデメーカム」をめぐって pp. 65-79
- Tomoyuki Nishikawa. Die Erzählung, die sich nicht zum Ganzen fügen will: Über E. T. A. Hoffmanns “Der Magnetiseur” pp. 81-92
- 丹辺文彦. 『ロシア人旅行者の手紙』(3) pp. 93-110
- 中井政喜. 郭沫若「革命与文学」における「革命文学」提唱についてのノート(上)—「革命文学」論争覚え書(1) pp. 111-130
- 大庭正春. 「間」のドラマトウルギー—世阿弥, ハウプトマン, カイザー, プレヒト— pp. 131-146
- 岩崎宗治. 『マクベス』の舞台図像—城門・広間・地獄— pp. 147-165
- 鈴木繁夫. ペリカンとピエター『リア王』における痛みの視覚芸術(1) pp. 167-188
- 三谷法雄. *A Journey from this World to the Next* について pp. 189-200

- 深田淳・小林ミナ・出口香. 多読による読解力養成—理論と CALL 教材開発— pp. 201-208
- 加藤扶久美. 第一言語習得と第二言語習得—可能表現の場合— pp. 209-223
- 福田真人. 鷗外文学と肺病—結核の比較文化史— pp. (81)-(93)
- ジロー、ジャン・ピエール. 『出雲国風土記』の国引き神話 pp. (69)-(79)
- 森田勝昭. 『時規物語』巻之一におけるアメリカ捕鯨船について (一) pp. (13)-(67)
- 中條直樹. 「村上文庫」収蔵の写本「魯齊亜」について pp. (1)-(12)

第 13 卷 第 1 号 (1991)

- 武田周一. フォンターネ研究ノート「ハンの木の崖」論—犯罪と女性像— pp. 3-18
- 西垣学. 『ワット』論 (III) pp. 19-29
- 中井政喜. 郭沫若「革命与文学」における「革命文学」提唱についてのノート (下) —「革命文学」論争覚え書 (2) pp. 31-54
- 三谷法雄. *Tom Jones* における空間について pp. 55-65
- 鈴木繁夫. ペリカンとピエター『リア王』における痛みの視覚芸術 (2) pp. 67-87
- 近藤健二. ふたつの語順が意味すること—日本語と中国語の場合— pp. 89-103
- 舩山洋介. 修飾語句を伴わない「モノ」の意味・用法 pp. 105-118
- 神谷修. 日・中漢字簡略化の比較 pp. 119-144
- Folkmar Koller. Kontraŭdiroj de la „Plena Analiza Gramatiko” al „La Fundamenta Gramatiko”, dua parto pp. 145-186
- Rainer Scheckel. Die Schlüsselwortmethode – ein neuer Weg des Wörterlernens für japanische Deutschstudenten? pp. 187-207
- 松村保寿. 変形文法 (GB) のプログラミング化とその評価—アルゴリズムの実現という観点から— pp. 209-225
- ジロー、ジャン＝ピエール・住谷裕文. 梶井基次郎作『K の昇天』の仏訳とその考察 pp. 227-244
- 平井勝利・加納光. 中国語の所謂連動式表現と否定の焦点 pp. 245-258
- 福田真人. 肺病・サナトリウム・転地療法—結核の比較文化史— pp. (1)-(53)

第 13 卷 第 2 号 (1992)

- 小栗友一. 「ゴーヴァーンと小袖姫」と「ガーヴァーンとオビロート」—ヴォルフラムのクレチアン受容について— pp. 3-15
- 鈴木繁夫. アンドレア・アルチャート『エンブレマタ』—翻訳 (1) pp. 17-58
- 中嶋忠宏. ケンタウロスの誘惑—ホーフマンスタールとベックリーンの世紀末— pp. 59-74
- 西村智. 自意識の伝記—『オーランドー』— pp. 75-88
- 三谷法雄. Fielding の小説における空間について pp. 89-99
- 舟橋豊. 「自然征服」思想と自然観 pp. 101-121
- 舩山洋介・秋山豊. 留学生に対するレポート・論文指導の実際と問題点 pp. 123-134
- 馬場勝弥. ゴットフリートと外国語 pp. 135-156
- 松村保寿. prolog による自然言語処理 No. 5—テーマ・レマ構造を捉える機械処理の原理 pp. 157-180

- Folkmar Koller. La deturnigô de Nestrojo disde la muziko pp. 181-190
- Rainer Scheckel. VIDEO IM DAF – UNTERRICHT MIT ANFÄNGERN: GRUNDLAGEN, METHODEN, ERFAHRUNGEN pp. 191-207
- Michelle Morrone. Public Values and Private Interests: Educational Goals in the U.S. and Japan pp. 209-221
- 西川智之. メスメリズムの源流と文学における展開 (前編) pp. 223-243
- 松本伊瑛子. ポストモダン・フェミニズムの文化解体戦略—《女なるもの》の復権に向けて— pp. 245-260
- 山田耕士. フランス・ペイコンのレトリック観 pp. 261-273
- 吉村正和. アルピオンの〈聖なる歴史〉—ブレイクとステュークリー pp. 275-290
- ジロー, ジャン=ピエール. 佐太の大神の誕生 pp. (55)-(65)
- 福田真人. 肺病の診断と治療—近代日本における結核の文化史— pp. (1)-(54)

第14巻 第1号 (1992)

- 田中京子. 指示詞が指し示すもの—日西比較の試み— pp. 3-18
- 杉山洋介. 文末の「モノダ」の多義構造 pp. 19-31
- 神谷修. 現代汉语量詞之探討 pp. 33-53
- 木下徹. Motivation and input as factors affecting second language acquisition pp. 55-65
- 平井勝利・成戸浩嗣. 「在・トコロ + V」と「手段・デ + V」表現の考察 pp. 67-93
- ジロー, ジャン=ピエール・住谷裕文, 梶井基次郎作「桜の樹の下には」と「交尾」の仏訳 pp. 95-104
- Adelbert G. Smith. An Evaluation of a Course at Nagoya University Using SRA Reading Laboratory 3b pp. 105-124
- Michelle Henault Morrone. Parental Attitudes Toward English Education for Japanese Preschoolers pp. 125-137
- 白井成雄. 「心」の佛訳語をめぐって pp. 139-153
- 武田周一. ユダヤ人迫害についての一試論 (I) pp. 155-168
- 松浦順子. 『イヴァン』と『イーヴェイン』における動詞時制について (1) —語りのテキストにおける時制群Iを中心に— pp. 169-185
- 松本伊瑛子. エレーヌ・シクスーのエクリチュール・フェミニンについて pp. 187-201
- 鈴木繁夫. 偶像破壊者の聖像崇拜—ミルトンの政治ソネットと英雄の視覚芸術— pp. 203-241
- 三谷法雄. Fielding と Incest のモチーフ—覚え書— pp. 243-249
- 長畑明利. 父親コンプレックスのアレゴリー—小津安二郎の「晩春」を読む— pp. (1)-(15)

第14巻 第2号 (1993)

- 平井勝利・成戸浩嗣. 日中両言語におけるトコロ表現の使用条件 pp. 3-43
- 藤村逸子. わからないコトバ, わからないモノ—「って」の用法をめぐって— pp. 45-56
- 古田香織. もう一つの Ellipse—広告コピーに見られるドイツ語の省略表現について— pp. 57-68
- Folkmaro Kolero. BAROKA POEZIO EN AŬSTRIO pp. 69-76

- Michelle Henault Morrone. JAPAN BASHING AS A LITERARY FORM: JON WORONOFF AND THE CRISIS GENRE pp. 77-88
- David Rines. BEYOND YAKUDOKU: ENGLISH READING INSTRUCTION IN UNIVERSITY GENERAL EDUCATION CLASSES pp. 89-110
- 四反田想. ルードルフ・フォン・エムス『世界年代記』—翻訳(独文・和文)及び注釈(1.1) pp. 111-125
- Shigeo Shirai. ACTUALITE D'ALAIN AU JAPON – AUTOUR DES *PROPOS SUR LE BONHEUR* – pp. 127-136
- 松浦順子. 『イヴァン』と『イーヴェイン』における動詞時制について(2)—語りのテキストおよび語り手の話のテキストにおける時制群Iを中心に— pp. 137-152
- 松本伊瑳子. エレーヌ・シクスーの「女性性」、「同性愛」、「両性具有」という言葉の使い方について pp. 153-168
- 鈴木繁夫. アンドレア・アルチャート『エンブレマタ』—翻訳(2) pp. 169-221
- 中嶋忠宏. シュピッテラーの象徴系(1)—管弦楽とアレゴリー— pp. 223-238
- 藤井たぎる. ジョージ・タボーリ、あるいはユダヤの知性—語りの構図、あるいはメビウスの環(2)— pp. 239-251
- 三谷法雄. *The Journal of a Voyage to Lisbon* について pp. 253-261
- 村主幸一. 『スペインの悲劇』における性と政治—転覆の力としてのバル＝インベリア pp. 263-276
- 涌井隆. 伊東静雄と三島由紀夫 pp. 277-297
- 前野みち子. ゲーテ『ローマ悲歌』における古典と近代—恋愛の文化史試論— pp. (13)-(30)
- ジャン＝ピエール・ジロー. 『出雲国風土記』の神々 pp. (1)-(12)

第15巻 第1号(1993)

- 西垣学. 成長する身体、停止した時間 pp. 3-16
- 武田周一. ユダヤ人迫害についての一試論(II) いわゆるイスカリオテのユダの弁明 W. イエンスの架空の独白劇による断想 pp. 17-27
- 松本伊瑳子. アラン・ロブ＝グリエのヌーヴォー・ロマンとエレーヌ・シクスーのエクリチュール・フェミニンとの類似点と相違点に関して pp. 29-43
- 柳沢民雄. ロシア語アクセント法の史的変遷 pp. 45-56
- 小栗友一 訳. ローエングリーン(中世ドイツ叙事詩)(1) pp. 57-77
- 熊澤一衛. ヴォルテールの死生観—デファン夫人への手紙 pp. 79-96
- 三谷法雄. *Incognita* について pp. 97-105
- 中嶋忠宏. シュピッテラーの象徴系(II)—バックリーンの糸杉の方へ— pp. 107-121
- 鈴木繁夫. 彼は法学を復興した—アルドレア・アルチャートの墓像彫刻とルネッサンス・ローマ法学— pp. 123-136
- 舟橋豊. 「自然征服」思想と自然観(2) pp. 137-157
- 中條直樹. 年代記と情報 pp. 159-168
- 平井勝利・成戸浩嗣. 中国語の「在・トコロ+V」と日本語の「非トコロ・ニVする」表現の考

察 (一) pp. 169-189

- 神谷修. 中国の色名について pp. 191-210
- Michelle Henault Morrone. Occupational Mobility in the U.S: The Attainment of White-collar Status (1865-1978) pp. 211-219

第15巻 第2号 (1994)

- 小栗友一 訳. ローエングリーン (中世ドイツ叙事詩) (2) pp. 3-18
- 三谷法雄. *Tom Jones* における結婚の主題について pp. 19-29
- 鈴木繁夫. 剽窃の倫理—ジョージ・ウィザーの『エンブレム集』とガブリエル・ロレンハーゲン
の『エンブレムの種』における模倣と逸脱— pp. 31-52
- 飯野和夫. シャルル・ボネの『心理学試論』—人間の「魂」の理解について— pp. 53-78
- 舟橋豊. 「自然征服」思想と自然観 (3) pp. 79-105
- Naohiro Takizawa. Tense and aspect in Marcus Terentius Varro's linguistic theory pp. 107-118
- 平井勝利・成戸浩嗣. 中国語の「在・トコロ+V」と日本語の「非トコロ・ニVする」表現の考
察 (二) pp. 119-132
- 成田克史. 仮名によるドイツ語発音表記における促音挿入の原則について pp. 133-150
- 後藤明史. 言語教育における教育工学—言語教育工学授業作品の分析— pp. 151-164
- Brian Perry. THE WORD-PROCESSOR AS A LANGUAGE-LEARNING AID: SOME
PEDAGOGICAL SUGGESTIONS pp. 165-176
- Adelbert G. Smith. LEARNER ANXIETY IN THE FOREIGN LANGUAGE CLASSROOM
pp. 177-187
- Michelle Henault Morrone. DIVERSITY AMONG JAPANESE PRESCHOOLS: TRADITIONAL
MODELS pp. 189-204
- 宮坂喬. フランス文学のモラリスト的特徴について pp. 205-215
- 松本伊瑛子. エレーヌ・シクスーにおける愛の観念—異邦性と同化作用— pp. 217-228
- 中井政喜. 关于《从文学革命到革命文学》与成仿吾札记 (上) —“革命文学”论争札记 (3)
pp. 229-245
- 柳沢民雄. ロシア語アクセント法の史の変遷— (II) ロシア語のアクセント法— pp. 247-258
- 前野みち子. ゲーテ『ローマ悲歌』における古典と近代—恋愛の文化史試論— (II) pp. (1)-(24)

第16巻 第1号 (1994)

- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐる (1) pp. 3-17
- 平井勝利・成戸浩嗣. “身につけ動詞”とトコロをめぐる表現の考察 pp. 19-35
- 古田香織. コノテーションの記号論に向けて—Eco, Bierwisch および Rössler のコノテーション論
再考— pp. 37-53
- Shin-ichi Tanaka. Categorical Prosody: A Formal Theory of Accent and Rhythm (1) pp. 55-75
- 神谷修. 病句分析 pp. 77-92
- John Williams. JAPANESE PRESS COVERAGE OF A “TERROR” PERIOD IN SRILANKA —
1987-1990 pp. 93-109

- Folkmaro Kolero. Kontraŭdiroj de la “Plena Analiza Gramatiko” al “La Fundamenta Gramatiko”, tria parto pp. 111-127
- 水戸博之. エラスムスとスペインのエラスミスモ—予備的考察— pp. 129-142
- 中井政喜. 关于《从文学革命到革命文学》与成仿吾札记（下）—“革命文学”论争札记（4） pp. 143-165
- 小栗友一 訳. ローエングリーン（中世ドイツ叙事詩）（3） pp. 167-184

第16巻 第2号（1995）

- 平井勝利・成戸浩嗣. 身体部分表現の日中対照 pp. 3-20
- Shin-ichi Tanaka. Categorical Prosody: A Formal Theory of Accent and Rhythm (2) pp. 21-40
- Brian C. Perry. Computer-assisted Language Learning: An Overview of Future Trends pp. 41-52
- Folkmaro Kolero. Kontraŭdiroj de la „Plena analiza gramatiko” al „La fundamenta gramatiko”, kvara parto pp. 53-82
- Max Deeg. Zur Stoff- und Motivgeschichte von Hermann Hesses “Siddhartha”, Teil 1 pp. 83-98
- 水戸博之. エラスムスとスペインの神学者たち（1516-1527）—1527年バジャドリ宗教審問委員会を巡って— pp. 99-113
- 小栗友一 訳. ローエングリーン（中世ドイツ叙事詩）（4） pp. 115-136
- 三谷法雄. Fielding の小説における結婚の主題について pp. 137-146
- 村主幸一. 成長しない子ども—『コリオレーナス』三幕二場 pp. 147-155
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐる（2） pp. 157-171
- 越智和弘. 暴力の循環構図—ドイツ的特性の解明へ向けて— pp. (35)-(52)
- 松岡光治 訳. エリザベス・ギヤスケル作「リジー・リー」 pp. (1)-(34)

第17巻 第1号（1995）

- 谷本千雅子. Catherの娘、レズビアンSt. Peter—*The Awakening*との比較を通しての*The Professor's House*論 pp. 3-16
- 中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』（1）（選訳） pp. 17-30
- 小栗友一 訳. ローエングリーン（中世ドイツ叙事詩）（5） pp. 31-53
- 村主幸一. 『コリオレーナス』の身体論（1） pp. 55-74
- 滝沢直宏. MOOを利用した対話型遠隔教育について pp. 75-87
- 平井勝利・成戸浩嗣. 所謂存在表現に見られる動作性 pp. 89-105
- Takeshi Omuro. On the Similarities and Differences between Nonverbal Communication Verbs and Manner-of-Speaking Verbs in English (1) pp. 107-127
- 滝澤隆幸・大岩昌子. 電子耳による聴覚・発声の改善研究 pp. 129-143
- Max Deeg. Zur Stoff- und Motivgeschichte von Hermann Hesses “Siddhartha”, Teil 2 pp. 145-159
- Claire DODANE. Genèse d’une réflexion sur la condition féminine: Yosano Akiko (1878-1942) et la maternité pp. 161-187
- 松岡光治 訳. エリザベス・ギヤスケル作「婆やの話」 pp. (1)-(24)

第17卷 第2号 (1996)

- 小栗友一 訳. ローエングリーン (中世ドイツ叙事務) (6) pp. 3-24
- 三谷法雄. *Tom Jones* における読者の反応 pp. 25-35
- 村主幸一. 『コリオレーナス』の身体論 (2) pp. 37-53
- Sanae Uehara. Reading Dialogue in *Desperate Remedies* pp. 55-64
- 山口庸子. 文学における「舞踊的なもの」—世紀転換期から1930年代までのドイツ文学— pp. 65-79
- 大曾美恵子. だって、なんか、なんて pp. 81-90
- 水野かほる. 「依頼」の言語行動における中間言語語用論—中国人日本語学習者の場合— pp. 91-106
- 平井勝利・成戸浩嗣. 移動動作の場所を示す“从”と補語をうける“ヲ”の日中対照 pp. 107-123
- Takeshi Omuro. On the Similarities and Differences between Nonverbal Communication Verbs and Manner-of-Speaking Verbs in English (2) pp. 125-154
- 田中伸一. 鼻音同化と無標鼻音についての一考察 pp. 155-169
- 神谷修. 试论“打”从动词到动词前缀的发展 pp. 171-183
- Brian C. Perry. “Conversation, the Classroom and the Computer” pp. 185-194
- 谷本千雅子. Had We Fallen Asleep, While Reading, and Only Dreamed a Wild Dream of Goodman Brown?: “Young Goodman Brown” におけるロマンスの快樂 pp. 195-205
- 星野幸代・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(2) (選訳) pp. 207-220
- 前野みち子. 「た」の文化史—時にまつわる意識とその展開— (I) (1)-(19)

第18卷 第1号 (1996)

- 近藤健二. 能格的なもの発展をめぐる (3) pp. 3-23
- Ryuta Minami. “This is, and is not, Shakespeare”: Shakespeares Reinvented on the Contemporary Japanese Stage pp. 25-40
- 滝沢直宏. 接続詞 *albeit* をめぐって pp. 41-55
- 水野かほる. 「依頼」の言語行動における中間言語語用論 (2) —directness と perspective の観点から— pp. 57-72
- 平井勝利・成戸浩嗣. 動作の結果としての存在を表わす表現 pp. 73-91
- Takeshi Omuro. Some Remarks on the Complements of *Nod* and *Smile* pp. 93-104
- 滝澤隆幸・大岩昌子. 外国語教育におけるプロソディの習得に関する一考察 pp. 105-115
- 神谷修・張鵬志. 汉语骂詈语的社會文化背景与文化内涵 (之一) pp. 117-132
- 白井成雄. ミシェル・アレクサンドル (1888-1952) pp. 133-154
- 星野幸代・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(3) (選訳) pp. 155-169
- 柳沢民雄. ソ連邦における内容的類型学について—北西カフカース諸語— pp. 171-193
- 小栗友一 訳. ローエングリーン (中世ドイツ叙事詩) (7) pp. 195-212
- 長畑明利. “Sunday Morning” における曖昧な説得 pp. 213-226
- 三谷法雄. Fielding の小説における Rape について—覚書— pp. 227-236
- 村主幸一. 『コリオレーナス』の身体論 (3) pp. 237-252

第 18 卷 第 2 号 (1997)

- 平井勝利・成戸浩嗣. 「在・トコロ + V」表現のアスペクト性 pp. 3-15
- 中条直樹・酒井智宏. 古ロシア語に関するコード変換の問題点について—コンコーダンス作成に向けて— pp. 17-32
- Takeshi Omuro. Problems with Jackendoff's Treatment of the *Way*-Construction pp. 33-44
- 滝澤隆幸・大岩昌子. 聴覚心理音声学的方法の語学教育への導入の試み—フランス語初級の授業から— pp. 45-52
- 鉄 軍. 民俗における「口彩(吉祥語)」現象—中国語日本語の対照の立場から考える— pp. 53-67
- 木下徹. 言語教育工学と Generalizability Theory : 新旧信頼性係数と Computer Adaptive Testing への応用を中心に pp. 69-78
- Sadamichi Kato. John Muir and Kumagusu Minakata pp. 79-87
- 星野幸代・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(4) (選訳) pp. 89-102
- 長畑明利. *The Making of Americans* における「グリッド」—ガートルード・スタインの文体と抽象 (1) — pp. 103-115
- 三谷法雄. *Joseph Andrews* の方法 pp. 117-127
- 中嶋忠宏. シェックのマイヤー歌曲集を読む pp. 129-145
- 村主幸一. 『コリオレーナス』の身体論 (4) pp. 147-161
- 内田綾子. アメリカ人宣教師と異教徒へのまなざし—19世紀前半のハワイ伝道— pp. 163-177
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐって (4) pp. 179-196
- 柴田庄一・岡戸浩子. 「外国語教育の多様化」とその可能性をめぐって—国際理解の視点から— pp. 197-211
- 塚部啓道. 芭蕉の「水とりや」の句をめぐって—芭蕉と杜國— pp. 213-229
- Mitsuo Tadokoro. La «voie de l'âme» ou la quintessence de l'Occident saisie par Arimasa Mori pp. 231-244
- 福田真人. 清潔と水—19世紀英国における衛生観念の文化史的考察 (1) — pp. 245-272

第 19 卷 第 1 号 (1997)

- 有川貫太郎. 歴史の中のラーオコオーン群像 pp. 3-19
- 奥田智樹. Falloir の表わす必然性の概念について pp. 21-30
- 田野勲. よき生活をするには…… (1) pp. 31-41
- 加藤貞通. アメリカン・ネイチャーライティングの動向: エゴからエコへ—包括的コミュニケーションへの誘いとして— pp. 43-55
- 星野幸代・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(5) (選訳) pp. 57-70
- 柳沢民雄. ソ連邦における内容的類型学について (2) —北西カフカース諸語— pp. 71-105
- 小栗友一 訳. ローエングリーン (中世ドイツ叙事詩) (8) pp. 107-125
- 長畑明利. *The Making of Americans* における「グリッド」—ガートルード・スタインの文体と抽象 (2) — pp. 127-140
- 松本伊瑛子. 魂の探究者、エレヌ・シクスー pp. 141-154
- 村主幸一. 『ジュリアス・シーザー』の身体論 (1) pp. 155-170

- 藤井たぎる. 下山一二三、あるいは幽玄の世界の媒介者 pp. 171-183
- 内田綾子. 19世紀前半のハワイにおけるキリスト教受容 pp. 185-199
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐる(5) pp. 201-216
- Masaharu Oba. „Dialog” als Vergangenheitsbewältigung. Über „Das Echolot” von W. Kempowski pp. 217-228
- 山口庸子. マイナデスの乱舞—エルゼ・ラスカー＝シューラーの詩「秘儀」をめぐる— pp. 229-244
- 福田真人. 風呂と海水浴—19世紀英国における衛生観念の形成(2)— pp. 245-254
- 渡辺ゆかり. 「記憶」動詞と「の」、「こと」 pp. 255-271
- 平井勝利・成戸浩嗣. 「在・トコロ」が表わす進行アスペクトの諸相 pp. 273-287
- Takeshi Omuro. Delimitation in English Unergative Verbs pp. 289-303
- 神谷修・張鵬志. 汉语骂詈语的社會文化背景与文化内涵(之二) pp. 305-325
- 藤村逸子. 日・仏・英語における受動文の使用—『金閣寺』と『雪国』の場合— pp. 327-341
- 木下徹. 創造性と学習者相互評価:TVスタジオの可能性をめぐる pp. 343-355
- 鉄 軍. 王侯貴族の庭園から大衆性パラダイスへの変容 pp. 357-368
- 松岡光治 訳. エリザベス・ギヤスケル作「ジョン・ミドルトンの心」 pp. (1)-(28)

第19巻 第2号 (1998)

- 小栗友一 訳. ローエングリーン(中世ドイツ叙事時)(9) pp. 3-20
- 中嶋忠宏. シェックのメーリケ歌曲集を読む(1)—詩的言語と音楽言語— pp. 21-36
- 村主幸一. 『ジュリアス・シーザー』の身体論(2) pp. 37-52
- 笠井直美. 「二帝各敘宗祖」—元明の三國故事の通俗文藝における君臣秩序に關わる叙述 pp. 53-74
- 山口庸子. 踊る肉体から輝く精神へ—エルゼ・ラスカー＝シューラーにおける身体像の変貌— pp. 75-89
- 平井勝利・成戸浩嗣. 「在V」と「V着」の使い分け pp. 91-110
- 木下徹. 共通教育課程における英語の単位取得の方法の多様化:検定制導入に関する学習者の視点を中心に pp. 111-125
- Adelbert G. Smith. LEARNER-CENTRED CLASSROOM PROFILES pp. 127-144
- John Williams. Kimura Takuya's Hair Wins the War. An analysis of the "anti-war" films of 1995. pp. 145-173
- David S. Ramsey. No Ground to Stand On: Early American Historiography and Indian Dispossession pp. 175-187
- 山田耕士. JonsonのShakespeare観 pp. 189-205
- 星野幸代・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(6)(選訳) pp. 207-222
- 柳沢民雄. ソ連邦における内容的類型学について(3)—北西カフカース諸語— pp. 223-240
- 前野みち子. 『ポルトガル尼僧の手紙』—書簡体恋愛小説の成立とヨーロッパ近代(I)— pp. (1)-(32)

第20巻 第1号 (1998)

- 神谷修・張鵬志. 《论语》《老子》《孙子》三部古籍中的主谓谓语句 pp. 3-19
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐる (6) pp. 21-42
- 鈴木繁夫. 矮小化された象徴形態: ソシユール『一般言語学講義』における恣意性からみた文字 pp. 43-75
- 滝沢直宏. 独立した非制限的關係代名詞としての Which について—Which が一般動詞の主語となっている場合— pp. 77-91
- 森川登美江・星野幸代・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(7) (選訳) pp. 93-107
- 松岡光治. 革命における愛憎の流動化—*A Tale of Two Cities*— pp. 109-118
- 日高憲三・水戸博之. グアラニー語の接辞及び後置詞の機能・用法に関する予備的考察 pp. 119-135
- 村主幸一. 『ジュリアス・シーザー』の身体論 (3) pp. 137-152
- Junko Yamashita. Relative Difficulties on the Levels of Comprehension in L1 Reading and L2 Reading pp. 153-170
- 涌井隆. 荒川洋治の詩—『娼婦論』・『水駅』を中心に— pp. 171-185

第20巻 第2号 (1999)

- Robert ASPINALL. 所沢高校入学式事件 pp. 3-21
- 内田綾子. ペヨーテ信仰とキリスト教—平原インディアンの文化的複合— pp. 23-36
- Toru KINOSHITA and Peter COUGHLAN. Young: An Exploration of one Korean's Interlanguage System pp. 37-50
- 熊沢一衛. 現代の *ars moriendi*—モーロワとモーラン pp. 51-63
- 森川登美江・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』(8) (選訳) pp. 65-77
- 中嶋忠宏. シェックのメーリケ歌曲集を読む (1) —水の物質的想像力と音楽言語— pp. 79-94
- 平井勝利・成戸浩嗣. 中国語の「V 到」とそれに対応する日本語の表現 pp. 95-112
- 廣部泉. 日本陸軍の対米観—1924年移民法に対する反応を中心に— pp. 113-121
- 福田真人. 梅毒の文化史的研究序説 pp. 123-132
- 藤井たぎる. 失われた音楽を求めて (1) pp. 133-147
- 藤村逸子. 日・仏語における受動文の主役性・主題性—『金閣寺』と『雪国』の場合— pp. 149-164
- 星野幸代. 中国人作家の戦前日本観—凌叔華「千代子」を読む pp. 165-177
- 松岡光治. ディケンズと狂気—監禁、群集、記憶、愛— pp. 179-197
- 丸尾誠. “还”の連続性・“再”の非連続性 pp. 199-213
- 村主幸一. 『ジュリアス・シーザー』の身体論 (4) pp. 215-229
- 柳沢民雄. ソ連邦における内容的類型学について (4) —北西カフカース諸語— pp. 231-254
- 山口庸子. ネズミたちの踊り—エルゼ・ラスカー＝シューラーの詩『私の青いピアノ』の分析— pp. 255-269
- David S. RAMSEY. The Emersonian Poet and Poetic Language pp. 271-286

第21巻 第1号 (1999)

- 大室剛志. One's Way 構文に起きる動詞と One's Way 構文の意識的使用について (1) —Cobuild
Direct の言語資料から言えること— pp. 3-16
- 小栗友一 訳. ローエングリーン (中世ドイツ叙事詩) (10) pp. 17-33
- 神谷修. 试论日语拟态词之翻译 pp. 35-52
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐって (7) pp. 53-67
- 鈴木繁夫. 記号の胎動: ギリシア・ローマ時代における記憶技芸の系譜 pp. 69-110
- 田所光男. フィンキェルクロート『想像のユダヤ人』における「見出された差異」—ジェノサイド後のフランスでのユダヤ人性の追求とサルトル— pp. 111-125
- 中條直樹・兼安シルビア典子. 司法の場における異文化コミュニケーションに関する考察
pp. 127-139
- 平井勝利・多和田峰子. 「- 过」の意味的連続性 pp. 141-152
- 森川〈麦生〉登美江・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』〈9〉(選訳) pp. 153-165
- 森川〈麦生〉登美江・星野幸代. 『二十世紀中国文学図誌』〈10〉(選訳) pp. 167-181
- 涌井隆. 蒲原有明の詩史的意味 pp. 183-192
- 松岡光治 訳. ギヤスケル婦人の生涯と作品 pp. (1)-(16)

第21巻 第2号 (2000)

- Aspinall, Robert. Policies for 'Internationalization' in the Contemporary Japanese Education System pp. 3-21
- 内田綾子. 平原インディアンの子供たちとキリスト教—ラコタ族の場合— pp. 23-37
- 大庭正春. Kontrastive Überlegungen zur Negation im Japanischen und Deutschen pp. 39-58
- 大室剛志. One's Way 構文に起きる動詞と One's Way 構文の意識的使用について (2) —Cobuild
Direct の言語資料から言えること pp. 59-73
- Kinoshita, Toru. HONNIN: A Critical Application of Katada's (1999) LF Representation of Anaphors to Another Japanese Reflexive pp. 75-97
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐって (8) pp. 99-111
- 滝沢直宏. 同格名詞節を導く that の省略について pp. 113-126
- 田所光男. アイデンティティの相対化—フィンキェルクロート『想像のユダヤ人』におけるユダヤ人性の問題— pp. 127-140
- 中條直樹・近藤俊介. レールモントフにおけるウクライナのテーマ pp. 141-153
- 中井政喜. 茅盾 (沈雁冰) と「牯嶺から東京へ」に関するノート (一) —革命文学論争覚え書 (8) —
pp. 155-175
- 中嶋忠宏. シェックのメーリケ歌曲集を読む (Ⅲ) —恋歌の拍節— pp. 177-192
- 藤井たぎる. 失われた音楽を求めて (2) pp. 193-207
- 二村久則・川田玲子. メキシコ紋章《鷲・サボテン・蛇》 pp. 209-232
- 星野幸代. 徐志摩におけるワーズワース—創作と凌叔華宛て書簡をめぐって— pp. 233-244
- 松本伊瑛子. エレーヌ・シクスーにおける東洋的なもの—華厳哲学とシクスー思想との比較研究—
pp. 245-263

- 柳沢民雄. ロシア語における有機的所有について pp. 265-301

第22巻 第1号 (2000)

- Isao Inoue. On Verbal ESs pp. 3-18
- 大室剛志. One's Way 構文に起きる動詞と One's Way 構文の意識的使用について (3) —Cobuild *Direct* の言語資料から言えること— pp. 19-34
- 加藤貞通. アルド・レオポルドの環境思想形成の軌跡 pp. 35-40
- 神谷修. 汉语骂詈语的社會文化背景与文化内涵(之三) pp. 41-57
- 近藤健二. 能格的なものの発展をめぐる (9) pp. 59-84
- 杉村泰. ヨウダとソウダの主観性 pp. 85-100
- 西川智之. ねじまき鳥クロニクル論 pp. 101-118
- 藤村逸子. Une fois que / aussitôt que 節の特徴—過去分詞構文との比較のために— pp. 119-132
- 平井勝利・松浦暢子. 現代中国語の両唇音における両唇の合わせ強度 pp. 133-142
- 森川〈麦生〉登美江・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』〈11〉(選訳) pp. 143-158
- 森川〈麦生〉登美江・星野幸代. 『二十世紀中国文学図誌』〈12〉(選訳) pp. 159-174
- 山口庸子. 詩と舞踊の交点—ゲルトルート・コルマルの詩「薔薇の踊り」を手がかりに— pp. 175-189
- 前野みち子. 〈毀れ瓶〉—その寓意の成立をめぐる— pp. (1)-(20)

第22巻 第2号 (2001)

- Isao Inoue. On the Development of Verbal ESs pp. 3-19
- 大曾美恵子. 感情を表す動詞・形容詞に関する一考察 pp. 21-30
- Oba Masaharu. Max Dauthendey und seine «Plastische Bühne» nach dem Vorbild asiatischer Theaterhäuser pp. 31-42
- 柴田庄一・岡戸浩子. 「グローカリゼーション」の動向と言語教育の行方—「多様化」をめぐるアンケート調査を手がかりとして— pp. 43-58
- 杉村泰. ヨウダとベキダの主観性 pp. 59-73
- 三浦玲一. クイア理論はポストモダニズムか?—Donald Barthelme の小説技法について— pp. 75-91
- 鈴木繁夫. 創造主への問いはメタレベルをこえているか:『失楽園』における秩序への回収と反復抹消願望 pp. 93-133
- 武田周一. ユダヤ人観についての一考察—シオニズムとの関連において— pp. 135-149
- 中井政喜. 茅盾(沈雁冰)と「牯嶺から東京へ」に関するノート(二)—革命文学論争覚え書(9)— pp. 151-162
- 成田克史. ドイツ語音声の仮名表記における重子音化の原理 pp. 163-172
- 藤井たぎる. 失われた音楽を求めて(3) pp. 173-187
- 藤村逸子. Une fois que 節と aussitôt que 節における能動文と受動文の分布 p. 189-203
- Haig, Edward. A Study of the Application of Critical Discourse Analysis to Ecolinguistics and the Teaching of Eco-Literacy pp. 205-226

- ・柳沢民雄. アブハズ語の動詞形態論 (I) pp. 227-262
- ・Takashi Wakui. Abstract Animation, Conceptual Art, and Don DeLillo's Underworld: collectibles and non-collectibles in art pp. 263-277
- ・前野みち子. 〈毀れ瓶〉—その寓意の成立をめぐる— (II) pp. (1)-(17)

第23巻 第1号 (2001)

- ・Inoue, Isao. The Unlearning of Incorrect Lexical Entries pp. 3-19
- ・内田綾子. アメリカ先住民の言語復興と教育—近年の動向から— pp. 21-35
- ・黄利恵子. 現代中国語における形容詞補語構文の多義性—双方向性動詞と単方向性動詞— pp. 37-48
- ・近藤健二. アルタイ系具格接辞*-jiの後裔 (前編) pp. 49-69
- ・杉村泰. 否定副詞ケッシテの意味分析 pp. 71-86
- ・Suzuki, Shigeo. Antaeus and the Sphinx: *Vanitas* and *Natura* in *Paradise Regained* pp. 87-108
- ・中條直樹・宮崎千穂. ロシア人士官と稲佐のラシャメンとの“結婚”生活について pp. 109-130
- ・福田真人. 研究ノート: インドの水保存法としての階段井戸 pp. 131-140
- ・藤村逸子・糸魚川美樹. フランス語における職業名詞の女性化—カスティーリャ語との比較— pp. 141-156
- ・森川〈麦生〉登美江・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』〈13〉(選訳) pp. 157-171
- ・柳沢民雄. 印欧語における他動性について (1) pp. 173-188
- ・Yamashita, Junko. Transfer of L1 Reading Ability to L2 Reading: An Elaboration of the Linguistic Threshold pp. 189-200
- ・前野みち子. 〈毀れ瓶〉—その寓意の成立をめぐる— (III) pp. (1)-(18)

第23巻 第2号 (2002)

- ・大曾美恵子. コーパスから得られるコロケーション情報—「影響、刺激、感動」を中心に— pp. 3-12
- ・笠井直美. 〈われわれ〉の境界—岳飛故事の通俗文藝の言説における國家と民族(上)— pp. 13-48
- ・木下徹・田所真生子. 「コミュニケーション能力とアカデミックディベート: 「説得力」養成効果の実証的検証を中心に」 pp. 49-66
- ・許夏玲. 文末の「カラ」と「カラダ」の意味用法—「ノダ」の用法との比較を通して— pp. 67-79
- ・黄利恵子. 現代中国語“上”が示す空間再考 pp. 81-91
- ・近藤健二. 能格的なものの発展をめぐる (10) pp. 93-104
- ・杉浦正利・竹内彰子・馬場今日子. リスニング能力養成のための自律学習: ディクテーションの効果 pp. 105-121
- ・杉村泰. 否定副詞ケッシテとカナラズシモの意味分析—全部否定と部分否定の間— pp. 123-133
- ・武田周一. ユダヤ人迫害についての—考察—シオニズムとの関連において— pp. 135-154
- ・田中聡子. 視覚表現に見る視覚から高次確認への連続性—視覚の文化モデル— pp. 155-170
- ・中條直樹・宮崎千穂. ロシア人の見たロシア人士官と稲佐のラシャメンの“結婚”について pp. 171-192

- 中井政喜. 茅盾(沈雁冰)と「牯嶺から東京へ」に関するノート(三)—革命文学論争覚え書(10)— pp. 193-209
- Haig, Edward. 英国政党の基本政策宣言(マニフェスト)における環境言説—1945年以降の発展— pp. 211-234
- 森川〈麦生〉登美江・星野幸代. 『二十世紀中国文学図誌』〈14〉(選訳) pp. 235-250
- 柳沢民雄. アブハズ語の動詞形態論(2) pp. 251-270
- Yamashita, Junko. Influence of L1 Reading on L2 Reading: Different Perspectives from the Process and Product of Reading pp. 271-283
- 前野みち子. 〈毀れ瓶〉—その寓意の成立をめぐる—(IV) pp. (1)-(17)

第24巻 第1号(2002)

- 伊藤信博. 穢れと結界に関する一考察「ケガレ」と「ケ」 pp. 3-22
- Webster, Fiona. The 恩[on] Concept: Dependency-Acknowledging Speech Acts in Japanese pp. 23-33
- 笠井直美. 〈われわれ〉の境界—岳飛故事の通俗文藝の言説における國家と民族(下)— pp. 35-76
- 神谷修. 中国改革开放时期新谣谚析 pp. 77-96
- Komada, Noriko. Planting “A Pear Garden in the West”: Recreation of Self, Community and Theater pp. 97-118
- 近藤健二. アルタイ系具格接辞*-jiの後裔(後編) pp. 119-139
- 柴田庄一・山口和代. 日本語習得における人間関係の認知と文化的要因に関する考察—中国人および台湾人留学生を対象として— pp. 141-158
- 杉村泰. 意志性のないテアル構文について pp. 159-174
- 田野勲. 現代アメリカ写真の黎明 ステীগリッツとハートマン pp. 175-187
- 鶴巻泉子. 90年代のブルターニュ再生—“グローバル”なイメージ戦略としてのマーケティング地域主義と言語— pp. 189-207
- 長畑明利. 視覚詩を読むこと—Steve McCafferyの *Carnival*— pp. 209-221
- 福田真人. 結核の文学史序説—病の比較文化史的研究— pp. 223-234
- 藤村逸子. フランス語における職業名詞女性化の通事的記述—政治の分野の名詞を中心に— pp. 235-250
- 松岡光治. 訳. ジェイコブ・コールグ著「ギッシングの生涯と作品」(前) pp. 251-264
- 森川〈麦生〉登美江・中井政喜. 『二十世紀中国文学図誌』〈15〉(選訳) pp. 265-280
- 森川〈麦生〉登美江・星野幸代. 『二十世紀中国文学図誌』〈16〉(選訳) pp. 281-294
- 前野みち子. 〈毀れ瓶〉—その寓意の成立をめぐる—(V) pp. (1)-(34)

第24巻 第2号(2003)

- 伊藤信博. 御霊会に関する一考察(御霊信仰の関係において) pp. 3-17
- 奥田智樹. Falloirの多義性 pp. 19-33
- Folkmaro, Kolero. Kontraŭdiroj de la Plena Analiza Gramatiko al La Fundamenta Gramatiko, kvina kaj lasta parto pp. 35-59
- 近藤健二. 具格接辞の変貌とアジア太平洋諸語の系譜(1) pp. 61-76

- 柴田庄一・遠山仁美. 技能の習得過程と身体知の獲得—主体的関与の意義と「わざ言語」の機能— pp. 77-93
- 杉村泰. テオク構文とテアル構文の非対称性について pp. 95-110
- 田中聰子. 心としての身体—慣用表現から見た頭・腹・胸— pp. 111-124
- 鶴巻泉子. 『郊外暴力』をめぐって—二つの記者グループの比較から見る事件の生成— pp. 125-148
- 中井政喜. 茅盾(沈雁冰)と「牯嶺から東京へ」に関するノート(四)—革命文学論争覚え書(11)— pp. 149-167
- 長畑明利. *Transport to Summer* における戦争・抽象・系譜 pp. 169-187
- Haig, Edward. 私の教科書はどのくらいグリーンだったか pp. 189-222
- 虞萍・星野幸代. 冰心「最後の安息」「西風」〔共訳〕 pp. 223-243
- 松岡光治 訳. ジェイコブ・コールグ著「ギッシングの生涯と作品」(後) pp. 245-257
- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題 I (1) pp. 259-274
- 柳沢民雄. Абхазские Тексты pp. 275-295
- 山田耕士. 『オセロー』のレトリック pp. 297-316
- 涌井隆. アルビレオの色：中原中也と宮沢賢治の作品に現れる銀河 pp. 317-328

第25巻 第1号 (2003)

- 伊藤信博. 「御霊神」の誕生 (1) pp. 3-22
- Kato, Sadamichi. “Body and Earth Are Not Two”: Kawaguchi Yoshikazu’s NATURAL FARMING and American Agriculture Writers pp. 23-30
- 近藤健二. 具格接辞の変貌とアジア太平洋諸語の系譜 (2) pp. 31-65
- 杉村泰. 日本語の副詞サゾの意味分析—「共感」と「程度性」— pp. 67-81
- 田所光男. ポスト・ショアの「良きユダヤ人」—ピエール・ゴールドマン『ラポポール』試論 (I) — pp. 83-97
- Tanimoto, Chikako. The Prison of Fantasy in David Henry Hwang’s *M. Butterfly* pp. 99-106
- 中井政喜. 茅盾(沈雁冰)と「牯嶺から東京へ」に関するノート(五)—革命文学論争覚え書(12)— pp. 107-125
- Nakahama, Yuko. Development of Referent Management in L2 Japanese: A Film Retelling Task pp. 127-146
- 西川智之. メルヒェンの森—KHM29の一解釈— pp. 147-159
- PAGÈS, JEAN-LUC. Français langue étrangère et littérature française: approche multimédia de l’œuvre de Victor Hugo pp. 161-177
- 布施哲. デリダー—政治的なるものへの抵抗— pp. 179-188
- 松岡光治 訳. ピエール・クスティヤス講演「没後100年間におけるギッシング批評の進展」 pp. 189-208
- 松本伊瑛子. 主体、性(ジェンダー)、文化 pp. 209-228
- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題 I (2) pp. 229-244
- 柳沢民雄. Абхазские Тексты (2) pp. 245-273

- 福田眞人. 検梅のはじまりと梅毒の言説—近代日本梅毒の文化史— pp. (1)-(15)
- 前野みち子. 娘たちの歩む〈人生の階梯〉(上) —十六・七世紀都市民の恋愛と結婚— pp. (17)-(37)

第 25 卷 第 2 号 (2004)

- 有川貫太郎. 古典ギリシャ語における条件文の用法について pp. 3-21
- 伊藤信博. 「御霊神」の誕生 (2) pp. 23-44
- Isao Inoue. On Sequential Learning pp. 45-54
- Kekidze Tatiana・田中聡子. 日露慣用表現に見る身体と精神の捉え方 pp. 55-83
- 柴田庄一. 『本格小説』(水村美苗)における「語り」の構造—表象の自由と読者関与の可能性をめぐって— pp. 85-98
- 杉村泰. 蓋然性を表す副詞と文末のモダリティ形式 pp. 99-111
- 田所光男. ポスト・ショアの「良きユダヤ人」—ピエール・ゴールドマン『ラポポール』試論(Ⅱ)— pp. 113-127
- Edward Haig. 「批判的言説分析」批判についての試論 pp. 129-149
- 丸尾誠. 中国語の場所詞について—モノ・トコロという観点から— pp. 151-166
- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題 I (3) pp. 167-181
- 柳沢民雄. アブハズ語の動詞形態論 (3) pp. 183-209
- 涌井隆. オスカー・フィッシンガーと寺田寅彦 pp. 211-223
- 福田眞人. 英国海軍軍医・検梅医ニュートンとその梅毒病院、そして梅毒言説—近代日本梅毒の文化史— pp. (1)-(16)
- 前野みち子. 娘たちの歩む《人生の階梯》(下) —十六・七世紀都市民の恋愛と結婚— pp. (17)-(37)

第 26 卷 第 1 号 (2004)

- 神谷修. 試論中国传统文化：気功 (一) pp. 3-17
- 柴田庄一・遠山仁美. 「暗黙知」の体得と「階層構造」の意義—「創発」の機制と熟達の諸条件をめぐって— pp. 19-38
- 杉村泰. 格助詞で終わる広告コピーに見る「に」と「へ」の使い分け pp. 39-54
- 鈴木繁夫. 交わりの拡張と創造性の縮小：ミルトンの四離婚論をめぐる諸原理について pp. 55-94
- Yuko Nakahama. A preliminary investigation of the differing use of deixis between spoken and written discourse: In the case of direction giving pp. 95-110
- JEAN-LUC PAGÈS. *Autobiographies sonores et enseignement de la civilisation française* pp. 111-133
- 水野由美子. 「変則的存在」から「インディアン市民」へ—1920年代の連邦議会におけるナヴァホ政策論争— pp. 135-153
- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題 I (4) pp. 155-169
- 村主幸一. 『タイタス・アンドロニカス』とフィロメラ物語 pp. 171-188

- David S. Ramsey. Sources for Hawthorne's Treatment of a White Mountain Legend pp. 189-201
- 福田真人. 『北里柴三郎試論・問題の所在と初期の教育』 pp. (1)-(12)
- 松岡光治 訳. チャールズ・ディケンズ著「殺人裁判」 pp. (13)-(26)

第26巻 第2号 (2005)

- 伊藤信博. 桓武期の政策に関する一分析 (1) pp. 3-40
- 奥田智樹. 推定判断表現の多義性 pp. 41-58
- 勝川裕子. 現代中国語における領属物に対する依存性一名詞述語文が成立する背景— pp. 59-72
- 柴田庄一・遠山仁美. 「暗黙知」の構造と「創発」のメカニズム—「潜入」と「包括的統合」の論理— pp. 73-89
- 杉村泰. 上級・超上級日本語学習者に見る格助詞「に」と「へ」の使い分け pp. 91-102
- Yuko Nakahama. Text Analysis of Japanese and English from the view point of implicature and syntactic reflections of information status pp. 103-111
- 藤井たぎる. 音楽と公的領域—ルイ・アンドリーセンの《国家》と社会的なもの— pp. 113-126
- Edward Haig. 教育の場におけるメディア学—英国の場合— pp. 127-150
- von Jörg Peters. Sprachregeln des Deutschen. Vermittelbarkeit und Anwendbarkeit im DaF-Unterricht pp. 151-171
- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題Ⅱ (1) 「マタイ福音書」における接続法未来 (1) pp. 173-188
- 村主幸一. レイプ表象の舞台化—『タイタス・アンドロニカス』的一幕と二幕を中心に pp. 189-205
- David S. Ramsey. Nathaniel Hawthorne's Boyhood in Maine pp. 207-219
- 涌井隆. 星のある風景：永井荷風と国木田独歩 pp. 221-226
- 前野みち子. 中世の女性観—フィリップ・ド・ノヴァルの『人生の四段階』について— pp. (1)-(21)

第27巻 第1号 (2005)

- 安藤重治. 教養英語と英作文教育 pp. 3-22
- 神谷修. 試論中国传统文化—気功 (二) pp. 23-34
- 柴田庄一. 「語り」の機能の拡大と縮小—『吾輩は猫である』に見られる三相のアスペクトをめぐって— pp. 35-47
- 杉村泰. イメージで教える日本語の格助詞と構文 pp. 49-62
- 田所光男. メンミにおけるアラブ=ユダヤ共生言説批判 (I) —「アラブ系ユダヤ人」の声— pp. 63-77
- Chikako Tanimoto. Milton's Eve in *Paradise Lost* pp. 79-89
- 田野勲. 国家・戦争・アイロニー—ランドルフ・ボーンの *Untimely Papers* をを中心に— pp. 91-108
- Liang Chua Morita. Three Core Values (Religion, Family and Language) of the Chinese in Thailand pp. 109-131
- Yuko Nakahama. Emergence of conversation in a semi-structured L2 English interview pp. 133-147

- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題Ⅱ (2)「マタイ福音書」における接続法未来 (2)
pp. 149-165
- 村主幸一. 『ロミオとジュリエット』のジェンダー地理学、あるいは空間と死 pp. 167-183
- 柳沢民雄. アブハズ語アクセントと schwa について (1) pp. 185-204
- David S. Ramsey. The Legible Landscape: Sources for the Sepulchral Setting of “Roger Malvin’s Burial” pp. 205-219
- 松岡光治 訳. メアリ・エリザベス・ブラッドン著「クライトン館の謎」 pp. (1)-(34)

第 27 卷 第 2 号 (2006)

- Inoue, Isao. On the Generalization of Non-Adjacent Dependencies: The Discrepancy between SRN Simulations and Human Behavior pp. 3-11
- 今井田亜弓. 若い日本人女性のピッチ変化に見る文化的規範の影響 pp. 13-26
- Kato, Sadamichi. The Agrarian Dream of a Former 1960s Student Protest Leader pp. 27-34
- 柴田庄一. 〈異界〉との往還と想像力発動のありか—夏目漱石『漾虚集』における幻視の様態について— pp. 35-51
- 杉村泰. イメージで教える日本語の格構文 pp. 53-65
- 田所光男. メンミにおけるアラブ=ユダヤ共生言説批判 (Ⅱ) —ジンミー身分への照準— pp. 67-80
- 田野勲. A. ステীগリッツとモダニズム (Ⅰ) pp. 81-96
- 中浜優子・栗原由華. 日本語の物語構築：視点を判断する構文の手がかりの再考 pp. 97-107
- 長畑明利. Hart Crane の詩の不透明性とセクシュアリティ pp. 109-126
- 水戸博之. ポルトガル語文法をめぐる諸問題Ⅱ (3)「マタイ福音書」における接続法未来 (3)
pp. 127-141
- 村主幸一. 身体内部へ侵入する視線—『タイタス・アンドロニカス』の場合 (1) pp. 143-159
- 李澤熊. 副詞の類義語分析 pp. 161-173
- 西川智之. ウィーンのジャポニズム (前編) —1873 年ウィーン万国博覧会— pp. 175-187
- 涌井隆. 星のある風景：夏目漱石の『鮎夫』、「夢十夜」、「思い出すことなど」 pp. 189-200
- David S. Ramsey. Narrative Strategies in *The Marble Faun* pp. 201-219
- 福田真人. 北里柴三郎試論：東京帝国大学医学部での教育 pp. (1)-(19)

第 28 卷 第 1 号 (2006)

- 飯野和夫. デリダのコンディヤック論—『たわいなさの考古学』解題— pp. 3-19
- 神谷修. 試論中国传统文化—気功 (三) pp. 21-32
- 柴田庄一. フィギュアスケートにみる基礎技能の体得と表現力の練磨—「技芸」の習得過程に関するケース・スタディとして— pp. 33-49
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-直す」の意味分析 pp. 51-66
- 鈴木繁夫. 夫婦は心友なのか：古典から中世キリスト教における友愛観の一断面 pp. 67-101
- 谷本千雅子. 語り手が語るのをやめるとき—Nella Larsen の *Passing* と Fae Myenne Ng の *Bone* における語りのレトリック pp. 103-114

- ・中嶋忠宏. シェックのメーリケ歌曲集を読む(Ⅳ) — 〈中庸の美〉の音楽— pp. 115-131
- ・水戸博之. 接続法未来の後退に関する一考察: マタイ福音書諸版をめぐって(1) pp. 133-149
- ・村主幸一. 身体内部へ侵入する視線—『タイタス・アンドロニカス』の場合(2) pp. 151-167
- ・Simon Potter. Osho in America: A Moment of No-Mind Visiting an Unliberated Land pp. 169-182
- ・松岡光治 訳. J・S・レ・ファニユ著「オンジエ通りの怪」 pp. (1)-(25)

第28巻 第2号(2007)

- ・有川貫太郎. 18世紀のイタリア・ガイドブック研究—(1) フォルクマン— pp. 3-14
- ・安藤重治. 『ユートピア』と無「私」の哲学 pp. 15-34
- ・Isao INOUE. Hysteresis Parameter Settings and the SRN Learning Curve pp. 35-40
- ・Okuda, Tomoki. La polysémie de *beshi* et la grammaticalisation pp. 41-52
- ・胡 潔. 養老令における親族名称について—一五等親条と服紀条を中心に— pp. 53-68
- ・柴田庄一. 文明批評家としての夏目漱石ならびに「教育者」としての意外な素顔—『野分』『それから』とその周辺をめぐって— pp. 69-86
- ・杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-直る」の意味分析 pp. 87-101
- ・谷本千雅子. 知の実践—ジェンダー論を教えるときの留意点 pp. 103-108
- ・水戸博之. 接続法未来の後退に関する一考察: マタイ福音書諸版をめぐって(2) pp. 109-124
- ・Morita, Liang Chua. Religion and Family of the Chinese and Thai in Thailand and Influences pp. 125-142
- ・村主幸一. 日常性を運び込む嘘—『アントニーとクレオパトラ』論(1) pp. 143-158
- ・Yanagisawa, Tamio. Abkhaz Text (3) – The Boy Brought Up by a Bull – pp. 159-179
- ・李澤熊. 韓国語副詞급히 [kipph^h] と 서둘러 [sədulla] の意味分析—日本語の「急に」／「急いで」との対照の観点から— pp. 181-193
- ・涌井隆. 内村鑑三と星の観望 pp. 195-208
- ・Potter, Simon. On the Artistic Heritage of Japanese Cartography: Historical Perceptions of Maps and Space pp. 209-225
- ・Weeks, Mark. Freud and the Economics of Laughter pp. 227-239
- ・福田真人. 『北里柴三郎: 内務省衛生局とドイツ留学への道』 pp. (1)-(29)

第29巻 第1号(2007)

- ・大津友美. 異文化間会話における相手の会話行動への評価—日本人学生とオーストラリア人留学生の雑談の場合— pp. 3-13
- ・杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-戻す」の意味分析 pp. 15-28
- ・鄭芝淑・飯田秀敏. ことわざミニマムとことわざスペクトル pp. 29-44
- ・李澤熊. 韓国語の副詞的成分이따가 [ittaga] と 나중에 [nazunge] の意味分析—日本語の「あとで」／「のちほど」との対照の観点から— pp. 45-62
- ・Ikeda, Keiko. A Critical Examination of the Interview as a Research Method for Qualitative Language-Based Studies pp. 63-73
- ・伊藤信博. 天狗のイメージ生成について—十二世紀後半までを中心に— pp. 75-92

- 寇振鋒. 清末政治小説の術語、概念の形成と明治政治小説との関わり pp. 93-104
- 柴田庄一. 「暗黙知論」の実践としての指導法と采配—考える闘将「オシム語録」を読み解く— pp. 105-122
- 水戸博之. 接続法未来の後退に関する一考察：マタイ福音書諸版をめぐって (3) pp. 123-137
- 村主幸一. 日常性を運び込む嘘—「アントニーとクレオパトラ」論 (2) pp. 139-154
- Tanimoto, Chikako. What Did George Forget?: Amnesia Caused the Fatal End in Kafka's "The Judgment" pp. 155-159
- Potter, Simon. Publicly Displayed Maps in Chikusa-ku, Nagoya: Samples of Japanese Cartographic Art pp. 161-174
- 松岡光治 訳. エリザベス・ギヤスケル作「リビー・マーシュの三つの祭日」 pp. (41)-(72)
- 前野みち子・香川由紀子. 西欧女性の手仕事モラルと明治日本におけるその受容 pp. (19)-(40)
- 胡 潔. 「嫡」・「庶」考 (1) —七世紀・八世紀の王室の系譜を中心に— pp. (1)-(17)

第29巻 第2号 (2008)

- Peter B. High. A Drama of Superimposed Maps: Ozu's *So Far From The Land of Our Parents* pp. 3-21
- 中井政喜. 魯迅「離婚」についてのノート—魯迅の民衆観等から見る— pp. 23-47
- Edward Haig. 英国ラジオ番組およびオンライン掲示板における少年犯罪に関するニュースの批判的言説分析 1. 導入 pp. 49-70
- Simon Potter. Osho in America: A Look into the Federal Question of Conspiracy pp. 71-91
- Chikako Tanimoto. A Study of African-American Speech in Literature: A Linguistic Approach to *Adventures of Huckleberry Finn* and *Native Son* pp. 93-100
- Masaharu Oba. Die verschiedene Szenenfolge des Fragments „Woyzeck“ von G. Büchner in den Ausgaben von F. Bergemann und O.C.A. zur Nedden pp. 101-110
- 星野幸代. 中国バレエ前史 pp. 111-121
- 柴田庄一. 夏目漱石にみる近代人的心性と自意識^{ドラマ}—『門』および〈後期三部作〉における叙法と主題の相関をめぐって— pp. 123-142
- 八幡耕一. メディアと政策の連関における社会的弱者 pp. 143-155
- 村主幸一. 日常性を運び込む嘘—『アントニーとクレオパトラ』論 (3) pp. 157-172
- 涌井隆. 藤村と星 pp. 173-185
- 西川智之. 芸術により飾られて—分離派結成までのウィーンの芸術運動— pp. 187-203
- 加藤貞通. 農的生活の豊かさとコミュニケーション pp. 205-214
- 藤井たぎる. シェーンベルクのマトリックス pp. 215-225
- 水戸博之. 接続法未来の後退に関する一考察：マタイ福音書諸版をめぐって (4) pp. 227-242
- 鈴木繁夫. ヴィーナスとナルキッソス：屈折する感覚と表象 pp. 243-268
- 吉村正和. オーウェン共同体と世俗的千年王国 pp. 269-287
- Keiko Ikeda. A Conversation Analytic Account of the Interactional Structure of "Arguments" pp. 289-304
- Isao Inoue. A Neural Networks Approach to Number Agreement in Existential Sentences

pp. 305-314

- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (4) – The Boy Brought Up by a Bull – pp. 315-332
- 衣川隆生・金原奈穂. モニタリングの基準の確立を目標とした口頭発表技能養成の授業 pp. 333-345
- 丸尾誠. 中国語における「開始義」について—方向補語“起来”の用法を中心に— pp. 347-360
- 鷺見幸美. 類義語ミトオス・ミスクの意味分析—心はどこに隠れているのか— pp. 361-376
- 李澤熊. 韓国語の副詞的成分일씩 [ilt'ik] と빨리 [p'alli] の意味分析—日本語の「早(速)く」との対照の観点から— pp. 377-390
- 勝川裕子. 現代中国における領属タイプと不可譲渡性 pp. 391-404
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-戻る」の意味分析 pp. 405-419
- 寇振鋒. 中国語における発音指導の方法について—日本人学生の中国語発音の難点とその指導方法— pp. 421-432
- 鄭芝淑. 比較ことわざ学の可能性 pp. 433-447
- 前野みち子. 歌の魔力—ハレヴェインとウーリンガー— pp. (1)-(19)

第30巻 第1号 (2008)

- 伊藤信博. 「果蔬涅槃図」と描かれた野菜・果物について pp. 3-24
- 寇振鋒. 清末政治小説理論における明治小説理論の受容 pp. 25-36
- 柴田庄一. 夏目漱石と日本の近代—百年後の今日に語りかけられていること— pp. 37-46
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-残す」の意味分析 pp. 47-60
- 古田香織. 女性誌を読み解く—女性誌と世代— pp. 61-73
- 星野幸代. 抄訳：李存信『毛沢東のラスト・バレエ・ダンサー』第七章～第八章 pp. 75-88
- Simon Potter. Evaluation of a “Historical Walking Course” Map in Chikusa Ward, Nagoya pp. 89-106
- 村主幸一. 死を運び込む—『ロミオとジュリエット』と『アントニーとクレオパトラ』における死のドラマツルギー pp. 107-122
- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (5) – The Boy Brought Up by a Bull – pp. 123-137
- 楊曉文. 文革期の「手抄本」に関する一考察—『第二次握手』と『波動』を中心に— pp. 139-155
- 李澤熊. 韓国語の副詞的成分서둘러 [seodulleo], 얼른 [eolleun], 어서 [eoseo] の意味分析 pp. 157-170

第30巻 第2号 (2009)

- 飯田秀敏・崔昇浩. 韓国語の数詞に関する覚書 pp. 3-20
- 飯野和夫. デリダのコンディヤック読解—自同性の問題を中心に— pp. 21-52
- Ikeda, Keiko. Triadic Exchange Pattern in Multiparty Communication: A Case Study of Conversational Narrative among Friends pp. 53-65
- 伊藤信博. パリ国立図書館東洋写本室資料古書目録を通じた異文化交流の諸相 pp. 67-96
- Inoue, Isao. The Preliminary Analysis of Artificial Neural Network Model for Prediction pp. 97-100

- 寇振鋒. 異文化間コミュニケーション—日本人学生の中国語誤用の文化的背景について— pp. 101-113
- Potter, Simon. Appraisal of the Damaged Map That Had Been Next to the Oosu Kannon Temple Complex in Nagoya pp. 115-134
- 柴田庄一. 「創造」の舞台裏と「わざ言語」の実際—カルロス・クライバーのリハーサルに見る指揮芸術の真髄— pp. 135-153
- 秦明吾. 「米粉」、「KY」、「做人不能太 CNN」などに見られる中日対訳の難しさ pp. 155-169
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-残る」の意味分析 pp. 171-180
- 鄭芝淑. 日本のことわざの認知度について pp. 181-196
- 高媛・劉海燕・徐青・劉斯微・王艷珍・金鶴卜・丹羽一郎・星野幸代. 〈共訳〉徐志摩「西湖記」 pp. 197-214
- 水戸博之. 接続法未来の後退に関する一考察：マタイ福音書諸版をめぐって (5) pp. 215-231
- 村主幸一. 日常性を運び込む嘘—『アントニーとクレオパトラ』論 (4) pp. 233-249
- Yanagisawa, Tamio. Abkhaz Text (6): How the king's daughter turned into a boy (1) pp. 251-276
- 山口庸子. 聖なる踊り子—シャルロット・バラの舞踏美学における宗教性— pp. 277-291
- 李澤熊. 韓国語の接続表現후에 [hue] と뒤에 [dwie] の意味分析 pp. 293-301
- Longcope, Peter. Differences between the EFL and the ESL Language Learning Contexts pp. 303-320
- 胡 潔. 嫡庶考 (2) —律令・戸籍の嫡子制度を中心に— pp. (1)-(18)
- 松岡光治. 訳. パトリシア・インガム著「ギヤスケルの方言使用とディケンズへの影響」 pp. (19)-(34)

第31巻 第1号 (2009)

- 伊藤信博. 植物の擬人化の系譜 pp. 3-34
- 奥田智樹. avec + 名詞、de façon (manière) + 形容詞、-ment の副詞の意味・用法の違いについて pp. 35-48
- 寇振鋒. 『三十三年の夢』の漢訳本『三十三年落花夢』について pp. 49-62
- 柴田庄一. 「皮相上滑りの開化」への疑念と民権思想の原基—分水嶺としての「征韓論争」と群島性のヴィジョン— pp. 63-81
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-尽くす」の意味分析 pp. 83-95
- Chikako Tanimoto. Labovian Interpretation of “The Wife of Bath’s Prologue” pp. 97-106
- 鄭芝淑. ハングル入力練習教材と韓国のことわざ pp. 107-120
- Franck Delbarre. Les formes verbales du français: constatation d’un certain type d’erreurs dans une classe de niveau supérieur pp. 121-137
- Tomoka Toraiwa. Oscillations of Power: Conducting Qualitative Research in a Foreign Country pp. 139-148
- 古田香織. 女性誌を読み解く 2—女性たちのセミオシス— pp. 149-163
- 星野幸代. 抄訳: 李存信『毛沢東の最後のバレエ・ダンサー』〈その2〉第十四～十五章 pp. 165-172
- Simon Potter. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool pp. 173-191

- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (7): How the king's daughter turned into a boy (II) pp. 193-219
- 楊曉文. 試論文革时期的手抄本—以《第二次握手》《波动》《公开的情书》为例 pp. 221-233
- 李澤熊. 韓国語動詞격치다 [gyeopchida] の多義構造 pp. 235-246
- Peter Longcope. A Multivariate Analysis of Interlanguage Differences between Learner Levels pp. 247-257
- 松岡光治 訳. アミーリア・エドワーズ著「鉄道員の復讐」 pp. (1)-(21)

第31巻 第2号 (2010)

- Simon Potter. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool (Part Two) pp. 3-19
- 楊曉文. 日本と中国における敵歌茶研究 pp. 21-36
- 李澤熊. 「たちまち、あつという間に、またたく間に」の意味分析—ベースとプロフィールの観点から— pp. 37-48
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-尽きる」の意味分析 pp. 49-60
- 柴田庄一. 技芸の修練と熟達の機制—歌舞伎の芸談を通覧して— pp. 61-82
- 蟹江静夫・柳晶・王艶珍・杜娟・高媛・馬寧澤・大島絵莉香・星野幸代. (翻訳) 徐志摩「愛眉小札」[1] 1925年8月9～15日 pp. 83-93
- 寇振鋒. 『孽海花』における『三十三年の夢』の受容 pp. 95-112
- 水戸博之. 現代ラテンアメリカにおけるカトリシズムの諸相 (1) pp. 113-124
- Isao Inoue. On the Effect of Training Data on Artificial Neural Network Models for Prediction pp. 125-128
- 松岡光治 訳. ウィルキー・コリンズ著「ジェロメット嬢と牧師」 pp. (1)-(25)
- 前野みち子. ウェヌスとアモルの変容—恋愛と贅沢とモラルをめぐる考察— (I) 古代社会における恋愛と贅沢とモラル pp. (27)-(46)

第32巻 第1号 (2010)

- Simon Potter. Maps on Public Display for Tourists in Ayutthaya, Thailand pp. 3-20
- 楊曉文. イギリス華文作家・虹影の文学に関する一考察 pp. 21-32
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-回す」の意味分析 pp. 33-49
- 水戸博之. 現代ラテンアメリカにおけるカトリシズムの諸相 (2) pp. 51-66
- Liang Chua Morita. Applying the Curriculum Cycle pp. 67-70
- 川口直巳・古本裕子. 「ビジネス日本語」クラスを考える—アジア人財コンソーシアム企業に対するインタビュー調査より— pp. 71-79
- 李澤熊. 韓国語の副詞的成分어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析 pp. 81-96
- 長畑明利. 白人らしさと黒人らしさ—雑誌 *Fire!!* とモダニズム— pp. 97-126
- 松岡光治 訳. ダイナ・マロック作「窓をたたく不思議な音」 pp. (1)-(16)
- 胡 潔. 平安時代の「後見」に関する一考察 pp. (17)-(29)

第32巻 第2号 (2011)

- 外池俊幸. 間接学習について pp. 3-15
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「-回る」の意味分析 pp. 17-32
- Simon Potter. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool (Part Three) pp. 33-50
- 楊晓文. 严歌苓新论 pp. 51-61
- 伊藤信博. 『酒飯論絵巻』に描かれる食物について—第三段、好飯の住房を中心に— pp. 63-75
- 丸尾誠. 中国語の方向補語について—日本人学習者にとって分かりにくい点— pp. 77-89
- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (8): Ts'an pp. 91-100
- 鷺見幸美. 類義語ミアヤマル・ミマチガエルの意味分析 pp. 101-114
- 金 華. 中国の大学の日本語専攻精読コースにおける一考察 pp. 115-128
- 西川智之. ゲーテの『親和力』 pp. 129-147
- 陳玲・蟹江静夫・柳晶・杜娟・高媛・馬寧澤・李楊・星野幸代. (共訳) 徐志摩「愛眉小札」[2]
1925年8月16~23日 pp. 149-160

第33巻 第1号 (2011)

- 李澤熊. 韓国人日本語学習者のための類義語分析—名詞を中心に— pp. 3-16
- Masaharu Oba. Emil Orlik und Max Reinhardt. Vom Ukiyoe-Farbholzschnitt zur Plastizität des modernen deutschen Theaters (Erster Teil) pp. 17-31
- 越智和弘. 労働力均質化時代の性と文化 I. 支配文明の基本構造 (1) pp. 33-45
- Simon Potter. The Buddhist Cosmos on Selected Maps in Ayutthaya: What Is Not Explained to the Tourist Viewer pp. 47-59
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「V1-果たす」の意味分析 pp. 61-73
- 鈴木繁夫. 反転する著者と読者: オットー・ファン・フェーン『愛の神アモルたちのエンブレム』における表象実践 pp. 75-98
- 外池俊幸. 回帰性と可能な文の数について pp. 99-110
- 古田香織. 『ユージェント』— „Der Neue Stil” をめぐって— pp. 111-124
- 水戸博之. アルゼンチンにおけるポルトガル語教育とブラジルにおけるスペイン語教育 pp. 125-139
- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (9): Lake Rits'a pp. 141-155
- 楊晓文. 李天葆・黄錦樹・梁靖芬研究 pp. 157-166
- 楊 韜. 近代中国におけるセクシュアリティ言説—雑誌『生活』の投書欄における論争を中心に— pp. 167-180
- 前野みち子. ウェヌスとアモルの変容—恋愛と贅沢とモラルをめぐる考察 (II) — pp. (1)-(19)

第33巻 第2号 (2012)

- 飯野和夫. コンディヤックの動的人間観—欲求の理論とその展開— pp. 3-26
- Masaharu Oba. Emil Orlik und Max Reinhardt. Vom Ukiyoe-Farbholzschnitt zur Plastizität des modernen deutschen Theaters (Zweiter Teil) pp. 27-45

- ・越智和弘. 労働力均質化時代の性と文化 I. 支配文明の基本構造 (2) pp. 47-60
- ・杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「V1- 果てる」の意味分析 pp. 61-75
- ・鶴巻泉子. 「ブルターニュ人であること」：フランスにおける移民と地域への所属 pp. 77-97
- ・蟹江静夫・李楊・高媛・李程思・陳玲・陳悦・星野幸代. 共訳：張愛玲「談跳舞」 pp. 99-111
- ・野内遊・水戸博之. テレノベラ El clon における麻薬中毒者の表象とその背景—ナタリア・フェレルの転落と更生を中心に— pp. 113-128
- ・楊暁文. マレーシア華文学の原点—北方作品『ニョニヤとババ』論 pp. 129-139
- ・楊 韜. 生活書店の募金活動について pp. 141-155
- ・Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (10): The Man Who Carried Out Good Deeds For A Dead Man (I) pp. 157-172
- ・福田真人. —「鷗外の手拭、北里の大風呂：清潔と近代」— pp. (1)-(27)
- ・胡 潔. 「家業」について (1) —『漢書』、『後漢書』を中心に— pp. (29)-(44)

第34巻 第1号 (2012)

- ・李澤熊. 日本人韓国語学習者のための類義語分析—「안 (an)」と「속 (sok)」— pp. 3-18
- ・Weeks, Mark. Comic Theory and Perceptions of a Disappearing Self pp. 19-29
- ・越智和弘. 労働力均質化時代の性と文化：II. 性の解放と資本主義の精神 (1) pp. 31-45
- ・杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「V1- 通す」の意味分析 pp. 47-59
- ・鈴木繁夫. 帆付き風車：『失楽園』における驚異の表象 pp. 61-78
- ・外池俊幸. 言語の起源：自分自身との対話としての思考—人工生命の観点から— pp. 79-89
- ・Simon, Potter. Publicly Displayed Illustrated Maps in Three Thai Cities with UNESCO Sites: Sukhothai, kamphaeng Phet, and Ayutthaya pp. 91-106
- ・水戸博之. テレノベラ El clon における二つの宗教：イスラム教・キリスト教—人間の誕生に関する生命倫理を巡って— pp. 107-124
- ・Yanagisawa, Tamio. Abkhaz Text (11): The Man Who Carried Out Good Deeds For A Dead Man (II) pp. 125-142
- ・楊暁文. 当热带雨林出现在文学中：王润华、张贵兴、杨艺雄“热带雨林”创作的研究 pp. 143-152
- ・楊 韜. 戦時中国における鄒韜奮の政治活動 pp. 153-166

第34巻 第2号 (2013)

- ・李澤熊. 「여기」と「이곳」の類義語分析—「ここ」と比較して— pp. 3-14
- ・Tomoki Okuda. Autour des expressions de l'obligation/nécessité en japonais pp. 15-32
- ・越智和弘. 労働力均質化時代の性と文化 II. 性の解放と資本主義の精神 (2) pp. 33-51
- ・杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「V1- 通る」の意味分析 pp. 53-65
- ・鶴巻泉子. 現代における『マイノリティ』? : ドゥアルネネ映画祭とそのマイノリティ概念の変容 pp. 67-82
- ・外池俊幸. 人間精神にとっての言語の重要性 pp. 83-93
- ・初山洋介. 「言い訳」考 (序説) pp. 95-109
- ・楊暁文. マレーシア華文学の周辺—具体的な作品の分析を手がかりに— pp. 111-122

- 楊 韜. 生活書店及び鄒韜奮研究に関するレビュー pp. 123-132
- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (12): The Man Who Carried Out Good Deeds For A Dead Man (III) pp. 133-151
- 胡 潔. 家業について (2) —平安時代を中心に— pp. (1)-(19)
- 前野みち子. 美德と悪徳の闘い—中世キリスト教モラルの図像学的研究 (1) — pp. (21)-(42)
- ディラン・ミギー. 作者の商標—享保改革以前の作者自己顕示 pp. (43)-(55)

第 35 卷 第 1 号 (2013)

- 飯野和夫. 初期コンディヤックにおける人間精神の高次の機能の素描—『人間知識起源論』の出版後間もない改訂に関連して— pp. 3-31
- 越智和弘. 労働力均質化時代の性と文化：Ⅲ. 性の思想化と脱肉体化 (1) pp. 33-48
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「V1- 抜く」の意味分析 pp. 49-63
- 鈴木繁夫. 性格不一致の離婚とその起源：ミルトン離婚論と現代離婚観の宗教性 pp. 65-79
- 外池俊幸. 生成文法が生成する文の数について pp. 81-86
- Nilep, Chad. Distinct Functions of quotative markers: Evidence from Meidai Kaiwa Corpus pp. 87-103
- 中村登志哉. ドイツの安全保障規範の変容—1999-2011年の海外派兵政策— pp. 105-124
- 李海・陳曉婧・李鴻・楊金娣・李瑾 (訳)、星野幸代 (編). 張愛玲「女を語る [談女人]」 pp. 125-133
- Potter, Simon. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool (Part Four) pp. 135-153
- 堀江薫・玉地瑞穂. 第二言語習得データから見た日本語のモダリティにおける「行為拘束的モダリティ」と「認知的モダリティ」の関係についての考察 pp. 155-169
- Baumert, Nicolas. Du saké de Kyôto au *kudarizake*: Evolution des territoires de production du saké entre la fin de la période Muromachi et la fin d'Edo pp. 171-183
- 水戸博之. スペイン語キリスト教文献における存在表現の他言語との比較に関する考察 (1) —スペイン語文法から見たキリスト教哲学— pp. 185-205
- 楊曉文. 李天葆論 pp. 207-218
- 楊 韜. 生活書店の人々：黄炎培・杜重遠・胡愈之・徐伯昕を中心に pp. 219-232
- Markus Rude. Prosodic Writing with 2D- and 3D-fonts: An approach to integrate pronunciation in writing systems pp. 233-252
- Yanagisawa, Tamio. Abkhaz Text (13): The Man Who Carried Out Good Deeds For A Dead Man (IV) pp. 253-268
- 伊藤信博・他 共同研究メンバー. フランス国立図書館蔵「酒飯論絵巻」の特徴と文化庁本の翻刻 pp. (1)-(25)
- 松岡光治 訳. ジョージ・ギッシング (作)「親の因果が子に報う」 pp. (27)-(42)
- ディラン・ミギー. 大惣本の落書 pp. (43)-(61)

第 35 卷 第 2 号 (2014)

- 新井美佐子. フランスの「対人サービス」政策に関する検討 pp. 3-19
- 越智和弘. 労働力均質化時代の性と文化 Ⅲ. 性の思想化と脱肉体化 (2) pp. 21-36

- Simon Potter. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool (Part Five) pp. 37-54
- 杉村泰. コーパスを利用した複合動詞「V1- 抜く」と「V1- 抜ける」の意味分析 pp. 55-68
- 星野幸代・楊韜. 【証言と資料】 飛舞人生—台湾現代舞踊家・李彩娥氏インタビュー— pp. 69-82
- 丸尾誠. 中国語の方向補語“下(来/去)”の派生的用法について—「量」の概念との関連から— pp. 83-97
- 村尾玲美. 英語の高頻度品詞連鎖における韻律パターン認識 pp. 99-108
- Tamio Yanagisawa. Abkhaz Text (14): Which One Among Us Does She Belong To? pp. 109-127
- 楊暁文. マレーシア華文学の特質に関する一考察 pp. 129-139
- 松岡光治 訳. ジョージ・ギッシング(作)「糸を紡ぐグレートヒエン」 pp. (1)-(12)
- 前野みち子. ^{ルクスリア}〈快樂〉と^{アウアリツア}〈貪欲〉—『^{ホルトウス・デーリキアールム}欲喜の庭』の細密画から読む中世都市社会— pp. (13)-(38)

第36巻 第1号 (2014)

- 李澤熊. 「余裕」と「ゆとり」の意味分析—ベースとプロファイルの観点から— pp. 3-14
- 越智和弘. 脱肉体化時代の官能的思索—ヴィレム・フルッサー論考(1)— pp. 15-30
- 杉村泰. 日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—非人為的事態の場合— pp. 31-45
- 鈴木繁夫. 性格不一致の離婚は可能:ミルトン離婚論の「申命記」と「マラキ書」釈義 pp. 47-63
- 鷲見幸美. 中国語を母語とする日本語学習者の和語動詞の使用—KY コーパスの分析— pp. 65-79
- 鶴巻泉子. レイシズムは拡大しているか? pp. 81-94
- 中村登志哉. 広報外交の組織的強化とその課題—第2次安倍政権を中心に— pp. 95-110
- 古田香織. ジャポニズムと『ユージェント』 pp. 111-121
- 星野幸代・高媛. 〈共訳〉丁玲「暑假中[夏休み]」(第一—四節) pp. 123-134
- Simon Potter. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool (Part Six) pp. 135-155
- Dylan McGee. Ex Libris Seals and Labels in the Daisō Rental Books pp. 157-168
- 柳沢民雄. N. F. ヤーコヴレフ—音韻論, カフコース学, ロシア語学—(1) pp. 169-178
- Wai Ling Lai・Chad Nilep. Logical Thinking Education to Combat Plagiarism pp. 179-193
- 卢 建. 現代汉语“动+间+直”双宾句式语义的历史变迁与承继 pp. 195-209
- 胡 潔. 古代日本の婚姻習俗と漢字表記(1) pp. (1)-(19)

第36巻 第2号 (2015)

- 飯野和夫. コンディヤックの記号概念—松永澄夫氏のコンディヤック関係二論文によせて— pp. 3-22
- Kazuhiro Ochi. Vampyreuthis in der desexualisierten Welt – Studie zu Vilém Flusser (1) – pp. 23-45
- 杉村泰. 日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—人為的事態の場合— pp. 47-62
- 鈴木繁夫. 排除、増幅、虚証:ミルトン離婚論の神聖修辞学 pp. 63-79

- 鷺見幸美. 中国語を母語とする日本語学習者による多義動詞の使用—KY コーパスに見られる使用語義の広がり— pp. 81-96
- 外池俊幸. 文法が生成する文の数が無限だという主張について pp. 97-106
- Simon Potter. On Deciphering Ameriglish as a Cultural Tool (Part Seven) pp. 107-126
- 涌井隆. 新国誠一の具体詩 pp. 127-138

第37巻 第1号 (2015)

- 李澤熊. 動詞「おす」の意味分析—日本語教育の観点から— pp. 3-14
- 越智和弘. 脱肉体化時代の官能的思索—ヴィレム・フルッサー論考 (3) — pp. 15-30
- 杉村泰. クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について—非人為的事態の場合— pp. 31-44
- 星野幸代・朱芬・楊金娣・李瑾・柘植香・陳伊静・陸洋・何憶鶴・朴香花. 研究ノート：徐志摩「女子について—蘇州女子中学での講演」 pp. 45-58
- Simon Potter. The Geographical Significance of the Tomb Inside the Kitora Burial Mound in Asuka, Nara Prefecture pp. 59-76
- 柳沢民雄. 北西カフカース諸語のアクセント体系の比較 (1) pp. 77-90
- 伊藤信博・三好俊徳・畑有紀・菊間美帆・樋口千紘・末松美咲. 『六条葵上物語』翻刻・注釈研究からみる擬人化された物語 pp. (1)-(17)
- 松岡光治 訳. ジョージ・ギッシング (作) 「高すぎた代価」 pp. (19)-(33)
- ディラン・ミギー. 平出順益の『代睡漫抄』から窺える抜粋抄録と大惣本の貸出 pp. (35)-(42)

第37巻 第2号 (2016)

- 新井美佐子. フランスの対人サービス企業における賃金決定の事例考察 pp. 3-12
- 飯野和夫. Condillac face à Condillac: la révision de l'Essai sur l'origine des connaissances humaines pp. 13-31
- 越智和弘. 脱肉体化時代の官能的思索—ヴィレム・フルッサー論考 (4) — pp. 33-48
- 杉村泰. クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について—人為的事態の場合— pp. 49-62
- Dylan McGee. Book Refurbishment Practices of the Daisō Lending Library pp. 63-71
- 初山洋介. 形容詞「かたい」の意味—メトニミーとフレームの観点から— pp. 73-87
- 柳沢民雄. 北西カフカース諸語のアクセント体系の比較 (2) pp. 89-102
- Markus Rude. Prosodic Writing shows L2 learners intonation by 3D letter shapes: state, results, and attempts to increase 3D perception pp. 103-120
- 伊藤信博. チェルヌスキ美術館蔵『奈良絵本・古今著聞集』の挿絵について pp. (1)-(18)
- 松岡光治 訳. ジョージ・ギッシング (作) 「安らかに眠れ」 pp. (19)-(34)

第38巻 第1号 (2016)

- 杉村泰. 英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について

- 非人為的事態の場合— pp. 3-16
- 李澤熊. 「決まる」と「決める」の意味分析 pp. 17-29
 - 卢 建. 显现于朝鮮时期汉语教科书中给予动词的变迁 pp. 31-38
 - 永澤濟. 判決における漢語動詞の特殊用法—「XとYとを離婚する」をめぐる— pp. 39-50
 - 柳沢民雄. ロシア語文法ノート—日本のロシア語教科書・文法書に見られる誤りについて— pp. 51-79
 - 古田香織. ドイツ総合芸術誌『ユエグント』(“Die Jugend”)における女性像 pp. 81-95
 - 越智和弘. 脱肉体化時代の官能的思索—ヴィレム・フルッサー論考(5)— pp. 97-111
 - 福田真人. 水と清潔—水の比較文化史序説(続) pp. 113-130
 - 井原伸浩. 1970年代の東南アジアにおける非経済的な日本イメージの悪化要因 pp. 131-145
 - 李瑾・陸洋・周利・睢静静・馬雷・王青・柘植香・谷金榜・楊韻(翻訳). 星野幸代(責任編集).
〈共訳〉張愛玲「第一炉香」その一 pp. 147-161

第38巻 第2号 (2017)

- 李澤熊. 「かえる」と「かえす」の意味分析—日本語教育の観点から— pp. 3-18
 - 杉村泰. 英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について—人為的事態の場合— pp. 19-31
 - 鷺見幸美. 多義動詞「ツケル」の指導についての一試案—話し言葉における日本語母語話者の使用実態を踏まえて— pp. 33-46
 - 丸尾誠. 中国語の結果補語“掉”の用法について—完遂義を中心に— pp. 47-60
 - Markus RUDE. Stereo-Schreiben & -Zeichnen: Virtuelle Realität durch synchrones, beidhändiges Schreiben/Zeichnen unter Parallelblick und zwei Sprachlernanwendungen pp. 61-85
 - 飯野和夫. コンディヤックの自由論—ロックの自由論との比較のもとに— pp. 87-115
 - 越智和弘. 脱肉体化時代の官能的思索—ヴィレム・フルッサー論考(6)— pp. 117-132
 - 山口庸子. 坪内士行のエドワード・ゴードン・クレイグ宛未公開書簡—翻訳と原文— pp. 133-155
 - 福田真人. 水と清潔—水の比較文化史序説(三) pp. 157-172
 - 胡 潔. 古代日本の婚姻習俗と漢字表記(2) pp. (1)-(15)
- 『言語文化論集』総目次 創刊号(1980)～第38巻2号(2017) pp. i-x1
- 編集後記 p. xli